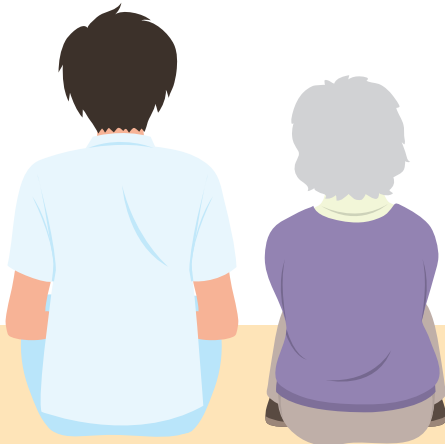


JJAOT

2025
8

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)
日本作業療法士協会誌



トピックス

認知症の方への作業療法

生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ

オーティくん見学ツアーその3
「読み解きスコープ」(子ども領域) オープン!

協会活動資料

2024年度 教育関連認定審査結果

作業で 暮らしに 彩りを

作業(Occupation)はすべての人にとって大切な生活行為や心身の活動であり、作業療法は作業を通して健康と幸福に寄与できるという確信が、私たちにはあります。

私たちは作業療法士の職能団体として、常に質の高い知識と技術を保ち続けます。常に最善の作業療法を探求し創造し続けます。常に一人ひとりに寄り添い、必要な人に、必要な時と場で作業療法を提供し続けます。

そのさきに私たちは、小さな喜びも幸せに感じられる色とりどりの暮らしと、さまざまな人が自分らしく生きられる社会の実現に貢献できると考えます。

この基本理念は、
協会組織のあり方や、
組織の方向性を示す
価値観として
策定されました。

作業療法の
対象者だけではなく、
私たち会員や職員、
みんなが自分らしく
豊かな人生を
送れるように。

そんな協会を
目指していることを
示しています。



一般社団法人 日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

トピックス

- 2 認知症の方への作業療法
- 7 生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ
- 9 医療機関における就労支援に関する意見交換会 開催案内
- 10 アジア作業療法協会交流会 開催案内
- 11 オーティくん見学ツアーその3
「読み解きスコープ」(子ども領域) オープン!
- 24 事務局からのお知らせ

連載

- 12 新しいコンピュータシステムの便利なポイント②
- 13 学会 NOTE ③
 - ▶ 教育セミナーってどんなもの?
- 16 作業療法士のための組織マネジメント講座⑦
- 20 生涯学修制度(新制度)がスタート!
～選ばれる作業療法士になるために～
 - ▶ 2025 年度以降に本会へ新規入会された皆様へ
～「登録作業療法士」取得に向けての実地経験について～

25 各部・室の動き／本誌第 160 号に関するお詫びと訂正

26 協会活動資料

- ▶ 2024 年度 教育関連認定審査結果

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 32 2025 年度協会研修会のご案内 | 39 求人広告／催物・企画案内 |
| 36 協会刊行物・配布資料一覧 | 40 編集後記 |
| 38 日本作業療法士連盟だより | |

訃報連絡

本会の初代会長を務められた鈴木明子先生が、2025 年 7 月 24 日にご逝去されました。鈴木先生は、わが国の作業療法士資格第 1 号に認定され、本会を創立し、会員第 1 号として初代会長を 1966 年 9 月 25 日から 1979 年 5 月 31 日まで務められました。我が国の作業療法の礎を築き、本会の創立と発展にご尽力された類まれなるご功績を偲び、深甚なる感謝とともに、謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。



認知症の方への作業療法

事務局

国は9月を「認知症月間」に定めています。世界的には、1994年に国際アルツハイマー病協会（ADI）が世界保健機関（WHO）と共同して、毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」とし、認知症の啓発を実施しています。これを受けて、日本では2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、国民の間に広く認知症についての関心と理解を深めるために、毎年9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と定めたのです。

作業療法を含むリハビリテーションは、認知症の方がその人らしく生きていくことに寄与するものであることは言うまでもありません。今年度の重点活動項目でも昨年度に引き続いて認知症を取り上げ、地域共生社会5ヵ年戦略関連の重要な取り組みの一つとして「認知症のリハビリテーションにおける作業療法士の実践の推進」を掲げており、作業療法士による認知症支援は関係職種、一般国民の皆様により広く知っていただくべきことです。そこで今回のトピックスでは、本会における認知症の方への作業療法の考え方や取り組みの一部を紹介します。

なお、協会ホームページでは特設ページ「認知症の方への作業療法」を設けていますので、ぜひ併せてご覧ください。



●「認知症の方への作業療法」ページはこちら

「認知症の作業療法」に関する協会の取り組み

我が国の認知症施策にリハビリテーションが位置付けられたのは、2015年1月に厚生労働省から示された認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）においてです。新オレンジプランでは、認知症の方に対するリハビリテーションについては、「実際に生活する場面を念頭に

置きつつ、有する認知機能等の能力をしっかりと見極め、これを最大限に活かしながら、ADL（食事、排泄等）やIADL（掃除、趣味活動、社会参加等）の日常生活を自立し継続できるよう推進する」こと、また、認知機能障害を基盤とした生活機能障害を改善するリハビリテーションモデルの開発が必須であり、研究開発を推進することも示されました。

こうした国の施策に基づいて、本会は認知症の方への作業療法に関する取り組みを推進しています。本会の主だった動きの流れをご紹介します。

1) 認知症のリハビリテーションを推進するための調査研究（2016年）

本会では、2016年に平成28年度老人保健健康増進等事業「認知症のリハビリテーションを推進するための調査研究」を受託し、①これまでの認知症のリハビリテーションに関する文献調査、②作業療法士による認知症の人に対する作業療法実態調査、③具体的実践事例の収集、④認知症疾患医療センターにおける作業療法士の先進的取り組み事例の聞き取り調査を基に、認知症リハビリテーションモデルの作成を行いました。

2) 認知症の人と家族の会からの提言とプロジェクトチームの立ち上げ

2020年、第181回社会保障審議会介護給付費分科会団体ヒアリングにおいて、本会は認知症に対する作業療法の事例を紹介しました。その際、認知症の人と家族の会より、認知症に対する作業療法の技術が紹介されましたが、デイサービスやデイケア、訪問リハビリテーションの現場でこのようなリハビリテーションを実際に受けた人がいないという現状が指摘されました。また、技術をもつ作業療法士が存在するにもかかわらず、認知症の人が必要なリハビリテーションを受けられない理由は何か、この状況を改善し、広く認知症の作業療法を提供するためにすべきことを明らかにしてもらいたいとの提言がありました。

これを受け、本会では2021年に、認知症の初期また

は軽度の認知機能低下に対応する訪問リハビリテーションの標準モデル構築を目指し、外部の有識者や関連団体を交えたプロジェクトチームを発足させました。会員への調査では、認知症を主たる疾病とする訪問リハビリテーションの依頼が少ないこと、一方で、認知症疾患医療センターでは、実践は少数ではあるものの作業療法士による ADL/IADL の評価や助言が診断後の支援として有効に機能していることが確認され、初期訪問支援の効果と重要性、制度整備の必要性が示唆されました。プロジェクトチームで、介入事例を収集し分析、有効性とアウトカムを検証し

た結果、認知症の人に対する ADL/IADL の自立に向けた介入として、作業療法士は、①認知症の人が見て理解できるような手かがりや視覚的な構造化を図る等の環境調整、②調整した環境での生活行為の反復練習、③調整した環境の理由やその環境下で本人が生活行為を実践できるよう、家族等に対する説明と理解等の介護指導を行っていることが明らかになりました。この結果をもって、令和 4 年度老人保健健康増進等事業「訪問による効果的な認知症リハビリテーションの実践プロトコルの開発研究」に取り組むこととなりました。

3) 令和 4 年度～令和 6 年度老人保健健康増進等事業

令和 4 年度事業では、訪問リハビリテーション等における認知症の人への支援の現状や生活行為に対する支援内容の実態を把握分析し、標準的な治療戦略（実践プロトコル）の開発に取り組みました。認知症の人の生活行為への作業療法士の実践内容を後方視的に分析したところ、訪問を実施した介入群と外来のみの対照群では、介入群で IADL に改善傾向、対照群で精神行動障害と介護負担感の悪化が認められました。なお、このデータをもとに令和 6 年度介護報酬改定において訪問リハビリテーションの認知症短期集中リハビリテーション実施加算が新設されています。

令和 5、6 年度事業では、令和 4 年度に開発した認知症のリハビリテーションのための実践プロトコルに関する多機関共同での効果検証や、認知症のリハビリテーション実施者に必要な知識等の研修内容についての検討、介護支援専門員等関係職種への認知症のリハビリテーションについての普及啓発、認知症短期集中リハビリテーション実

生活行為の課題				
アセスメント		心身機能	活動と参加	環境因子
	障害されている			
	強み			
アセスメント要約				
支援計画		①環境調整 (手かがり・視覚的構造化)	②生活行為に対する反復練習	③関わり方等の指導 (家族・支援専門職等)
介入方針 (介入頻度、時間、同行者の有無、ケア会場の実施の有無等も記載)				
本人				
実施者	家族			
	ケア提供者			
	その他			
結果				

図 認知症の人に対するリハビリテーションの実践報告様式

施加算に取り組むうえでの課題の検証、認知症のリハビリテーションの啓発普及媒体の作成を行いました。

4) 認知症人に対するリハビリテーションの実践プロトコル

アルツハイマー型認知症については、認知機能と ADL/IADL の相関が明らかにされており[※]、認知機能を評価することである程度の ADL/IADL の状態が推測可能です。そのことから、適切な時期に適切な介入をすることで一定の効果が得られるのではないかと考えられるため、認知症人に対するリハビリテーションの実践プロトコルでは、その対象をアルツハイマー型認知症の機能評価尺度（FAST）のステージ 3 以上、MMSE24～28 点の複雑な職業的あるいは社会的作業を阻害する程度の客観的な機能低下がみられる境界域以下の者、等に限定しています。

実施手順としては、対象者の意向も含めた生活行為の課題の把握、ICF に基づいた生活行為の課題のアセスメント、環境調整、反復練習、かかわり方の指導についての支援計画の立案、支援の実施、モニタリング、終了時の申し送り、となっており、その報告様式は図のとおりです。

この実践プロトコルの効果検証では、実践プロトコルを用いた群で 1 ヶ月後評価において介護負担感が軽度の改善、3 ヶ月後評価において IADL が維持できている等の効果がみられています。

※池田学：生活行為障害の分析に基づく認知症リハビリテーションの標準化に関する研究報告書、2018.3

5) 新しい認知症観を推進する作業療法

認知症基本法に基づき 2024 年 12 月に示された認知症施策推進基本計画では、「認知症になったら何でもできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」に立つことが求められています。これまでの当会の研究や取り組みを通して、この「新しい認知症観」の推進に私たち作業療法士は作業療法の技術をもって応えられることが明らかになりました。認知症の人が支援を希望した場合、すべての作業療法士が良質かつ適切な支援を提供できる体制整備が急務であると考えています。今年度予定している重点課題研修「認知症の人に対するリハビリテーション（実践プロトコル）研修会」へのご参加や、認知症のリハビリテーションの啓発普及媒体として作成した「生活行為を続けるためのヒント集 - 改訂版 -」もぜひ活用いただければと思います。



●「生活行為を続けるためのヒント集 改訂版」はこちら

都道府県作業療法士会はさまざまな取り組みを行っています

地域社会振興部地域事業支援課の認知症対策班では、世界アルツハイマーデーに合わせて都道府県作業療法士会における認知症関連の活動を収集し、毎年、協会ホームページで公開しています。また、認知症への取り組みを推進する各士会の担当者同士の情報交換会も開催しています。

各都道府県士会では、作業療法士が認知症の方を支援するにあたってのスキルアップのための研修会の実施や、自治体の事業への協力、家族会等への支援に取り

組んでいます。コロナ禍を通じて Web 研修やイベントも一般的になりました。ぜひ皆さんの所属士会やそれ以外の士会の取り組みをチェックしてください（先述の「認知症の方への作業療法」ページ>「都道府県の作業療法士会が様々な取り組みをしています」欄の地図の画像をクリック）。

作業療法士による支援を親しみやすく広報しています

制作広報室では、作業療法 5 ヵ年戦略と毎年度の重点活動項目で挙げられている「作業療法士の認知症支援」を広報媒体に落とし込み、一般国民、他職種、関連団体、自治体等への普及啓発に役立つツールを製作、会員の皆様に提供しています。

Web コンテンツや PDF、動画といったかたちで Web 上にデータをアップしていますが、持ち運べるようにパンフレットやチラシ、DVD 等、物理的な媒体も用意していますので、イベントやセミナー、学校養成施設での授業、自治体や他職種への PR 等にご活用ください。

● Web コンテンツ・パンフレット「オーティクンの見学ツアーその 2：オーティクンと行く 作業療法でデキタウン」

「ようこそ、ここは『できる』や『できてる』がいっぱいのまち『デキタウン』。認知症によって困ることを、その人の問題、何もできなくなってしまう病気とあきらめるのではなく、まわりを工夫して変えていけば、できなかったこともできるという考え方へ。だれにでも起こりうるあたりまえのこととして、認知症と、ともに暮らしていくまちです。そこに活かされているのは、作業療法士の視点。オーティクンが訪ねて、探ります。」

Web コンテンツの仕掛け絵本のような楽しさがあり、小中学生にもわかりやすく、作業療法士がどのようにして認知症の方を支援できるのかをお伝えしています。

なお、本コンテンツはパンフレット版もご用意しています。

● チラシ「日々の暮らしを続けるために。認知症リハビリテーションがあります。」

広報媒体としてのチラシのメリットは、1 枚の紙に情報が過不足なくデザインされている点にあります。本チラシは、認知症のリハビリテーションとはどんなものなのか、作業療法士はどのようなことを重視して、どんな貢献ができるのかを端的に伝えています。

●映像作品「二本の傘」

作業療法士は認知症に対してどのような観点に立って、患者さんやご家族を支援しているのか、映像だからこそ、そしてドラマ仕立てだからこそ、わかりやすく伝えることができます。

協会ホームページで視聴できますが、YouTube にもアップしています。YouTube では、全体、ドラマパートのみ、解説パートのみ、ダイジェスト版と用途に応じた視聴が可能です。



●『二本の傘』視聴はこちら



●協会の YouTube チャンネルはこちら

「二本の傘」 STORY

二本の傘を握りしめ、雨のなか、家を飛び出す裕之。家族の懸命の搜索のなか、握った傘をさすこともなく、ずぶ濡れになり警察に保護されていました。「もう人に迷惑をかけないで！」思わず大きな声を出してしまった妻の静江。

認知症という病はご本人にも介護する家族にも大きな混乱と不安をもたらします。さまざまな職種が連携しながらサポートすることが必要とされる認知症という病。その一つの職種「作業療法」の観点から認知症の人が置かれている状況を「脳の障害」「環境」「人生史」で整理していきます。

雨に濡れながらもしっかりと握りしめられていた二本の傘。その傘にはどのような想いが込められていたのでしょうか。認知症を患っても何ら変わることはない人に寄せる想い、やさしさに触れてみてください。



DVD『二本の傘』ジャケット



Web コンテンツ「オーティクンの見学ツアーその2：
オーティクンと行く 作業療法でデキタウン」



チラシ「日々の暮らしを続けるために。認知症リハビリテーションがあります。」

今年もやります！ 認知症に対する作業療法広報コンテンツ送付無料キャンペーン

先述のとおり本会は 2025 年度の重点活動項目として「認知症者のリハビリテーションにおける作業療法の実践推進」を掲げています。また 9 月はアルツハイマー月間でもあります。

そこでアルツハイマー月間を機に、作業療法士がかかわる認知症における作業療法をより多くの方に知っていただくために、認知症関連の広報媒体を送料無料にて会員の方へ配付します。認知症に関するイベント等の機会にぜひご活用ください。

【配付物】

- ①パンフレット『作業療法でデキタウン』 上限 100 枚
- ②チラシ『日々の暮らしを続けるために。認知症のリハビリテーションがあります。』
上限 100 枚
- ③DVD『二本の傘』+ 冊子『二本の傘 副読本』 上限 1 セット（副読本のための配布はいたしません）

【応募対象者】

日本作業療法士会会員の方で、会員個人もしくは会員が所属する施設の事業や広報活動で使用する方
※都道府県士会事業または、学校養成施設の事業（オープンキャンパス等）での使用は、対象外といたします。

【申込方法】

下記内容を記載のうえ、メールにてお申込みください。

※送付無料の申し込みはメールのみ受付といたしますので、ご注意ください。

件名：「認知症広報コンテンツ希望」

本文：以下の 5 項目についてご記載ください。

1. 希望する広報コンテンツ
2. 会員番号
3. お名前
4. 使用用途（なるべく詳細に記載してください）
5. 希望枚数（パンフレット・チラシ各上限 100 部まで。DVD1 セットまで）

【申し込み先および問い合わせ先】

制作広報室 public-relation@jaot.or.jp

【申し込み受付】

2025 年 9 月 30 日（火）まで



生涯教育の各種認定・試験に関する重要なお知らせ

教育関連審査会

2025 年度の専門作業療法士資格認定審査、認定作業療法士取得臨床実践能力試験をそれぞれ次の要領にて実施します。該当する会員の方は、準備並びに必要な手続きをお願いいたします。詳細は協会ホームページ（会員向け情報＞教育関連＞協会認定資格試験・審査会情報＞試験について）をご参照ください。

2025 年度 専門作業療法士 資格認定審査のお知らせ

申請資格
各分野の取得要件 2（手引参照） および以下の取得要件を満たしていること。または読み替え要件および以下の取得要件を満たしていること。 ①作業療法士免許を有すること。 ②当該年度の年会費を納めていること。 ③申請時および試験時ともに認定作業療法士であること。
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2025 年度専門作業療法士資格認定審査申請書」をダウンロードし、必要事項を記入し、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】各分野の手引きにある申請に必要な書類を用意する。 ①作業療法士免許証の写し、②当該年度の Web 会員証（日本作業療法士協会）の写し、③認定作業療法士認定日および満了年月日が記載されているページ（会員ポータルサイトから印刷してください）、④専門作業療法士研修受講履歴（会員ポータルサイトから印刷してください。なお、読み替え申請者は不要）、⑤所属作業療法士会の会員暦証明証、⑥分野別申請書類一式、⑦読み替え申請書、⑧審査料（5,000 円）の振込済み証明書の写し、⑨申請者の返信先明記済の 110 円切手を貼付した返信用封筒（長形 3 号） ↓ 3. 2025 年 9 月 1 日（月）～ 10 月 31 日（金）（当日消印有効） の期間に、上記申請書に添付書類等を添えて、協会事務局へ郵送する（レターパックプラスを推奨）。
専門作業療法士取得試験資格者の決定について
1. 教育関連審査会にて、11 月中に申請に必要な書類の確認をいたします。 ※申請書類の内容で確認が必要な場合は個別にご連絡をし、指定する期日までに書類の再提出をお願いすることがあります。 2. 専門作業療法士資格取得試験の資格を満たす該当者には、1 月中に受験票を発行します。
試験審査概要
1) 日 時：2026 年 2 月 7 日（土）11：00～13：00（10：00 開場、10：50 オリエンテーション） 2) 会 場：東京文具共和会館（予定。変更になることがあります） 3) 審査料：5,000 円 申請時に振込 【振込先】郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座 4) 方 法：筆記試験（四肢択一）120 分 5) 当日持参するもの：受験票、時計、筆記用具 （※運転免許証等、本人を確認できるものを持参ください。確認する場合があります）

ご注意！ 専門作業療法士 読み替えによる取得の申請に関して

専門作業療法士 読み替え要件を満たす会員の方は、必ず申請いただきますようお願いいたします。詳細は、協会ホームページの専門作業療法士取得の手引きをご確認ください。

参考：読み替え期間

- ①脳血管障害 2026 年度まで
- ②運転と地域移動支援 2030 年度まで

2025 年度 認定作業療法士取得「臨床実践能力試験」

申請資格
以下の取得要件を満たしていること。 ①認定作業療法士取得共通研修ならびに選択研修が修了していること ②申請時および試験時ともに基礎研修修了有効期限内にあること ③当該年度の年会費を納めていること
申請の流れ
1. 協会ホームページより、「2025 年度認定作業療法士取得臨床実践能力試験申請書」をダウンロードする。必要事項を記入し、写真を貼付する。 ↓ 2. 添付書類等を準備する。 【添付書類】 ①当該年度の Web 会員証（日本作業療法士協会）の印刷（振込みの郵便局等金融機関の領収証の写しでも可） ②上記「取得要件」の①②が確認できる部分を会員ポータルサイトから印刷（詳細は協会ホームページに掲載します） ③申請者の返信先明記済の 110 円切手を貼付した返信用封筒（長形 3 号） ↓ 3. 2025 年 11 月 1 日（土）～ 12 月 10 日（水）（当日消印有効）の期間に、上記申請書に添付書類等を添えて、協会事務局へ郵送する。 ↓ 4. 受験票の発送 ↓ 5. 受験料の振込み
試験審査概要
1) 日 時：2026 年 2 月 8 日（日） 11：00～13：00（10：00 開場） 2) 会 場：東京文具共和会館（予定。変更になることがあります） 3) 受験料：5,000 円 【振込先】郵便振替口座：00120-7-146118 生涯教育講座 ※期日までに入金してください。遅れた場合は受験資格を失います。 4) 定 員：50 名（希望者多数の場合は抽選にて決定） 5) 方 法：筆記試験（四肢択一／四肢択二）120 分

●専門作業療法士 新規分野「運転と地域移動支援」が誕生しました！

2024 年度第 1 回臨時理事会（2025 年 3 月 12 日開催）で、専門作業療法士（運転と地域移動支援）の創設が承認されました。現在、定義や研修カリキュラム等を教育部生涯教育課で検討を進めています。『専門作業療法士の認定取得のための手引き』は、近日中に協会ホームページに掲載する予定です。



医療機関における就労支援に関する意見交換会 開催案内

制度対策部

第四次作業療法5ヵ年戦略の対応事業の一つとして、「医療機関における就労に向けた支援実態の把握及び連携の推進」を掲げており、昨年度は「医療機関からの就労支援事例集」を作成しました。今回の意見交換会では、その「医療機関からの就労支援事例集」を基に、4名の方に就労支援の基本と支援の視点を含めた事例報告をいただき、現場での課題やその対応方法等についての意見交換を行います。就労支援の経験が少ない方でもご参加いただけるような内容としておりますので、ぜひご参加ください。



●「医療機関からの就労支援事例集」はこちら

医療機関における就労支援に関する意見交換会 開催概要

- 開催日時 2025年10月5日（日）9:00～12:30
- 開催方法 Web開催
- 対象者 日本作業療法士協会員
- 参加費 無料
- 定員 50名（先着順）
- 申込方法 協会ホームページの会員向け情報、または右記二次元コードよりお申し込みください。



●申し込みはこちら

●スケジュール（予定。変更の可能性あり）

- 8:30～ 受付開始
- 9:00～ 開会挨拶
- 9:10～10:50 事例報告（4事例）
 - ・高次脳機能障害を呈した脳出血事例に対する急性期からの就労支援
 - ・同業者に作業療法の様子を見てもらうことにより、復職に必要な技能の評価・練習ができた一症例について ～大工への復職～
 - ・高次脳機能障害者の就労継続に向けて行った職場との療養・就労両立支援について
 - ・関節リウマチ患者における就労継続支援—着付け師継続事例—
- 11:00～12:00 意見交換
- 12:10～12:30 まとめ・質疑応答

- 申込締切 2025年9月24日（水）
- お問合せ 制度対策部 E-mail: ot_seido@jaot.or.jp



アジア作業療法協会交流会 開催案内

国際部

オブザーバー参加者を募集します

アジア作業療法協会交流会は、2014 年から 2017 年に開催された「東アジア諸国との交流会（第 1 フェーズ）」を前身とし、第 2 フェーズとなる 2018 年から 2023 年までは隔年で日本作業療法学会の前日に開催していました（コロナ禍中は Web 開催）。第 3 フェーズは 2024 年から 2029 年で、今年度はオンラインで開催することが決定しました。

今回は、香港、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾から、各国・地域（協会）が主催する作業療法学会について情報提供いただきます。

本交流会を傍聴できるオブザーバー参加者を募集いたしますので、アジア諸国の作業療法学会について関心のある方は、下記をご確認のうえ、お申し込みください。



2023 年、沖縄で開催した交流会の様子
(対面とオンラインのハイブリッド開催)



交流会参加者で記念撮影

アジア作業療法協会交流会 2025 開催概要

- 日 時 2025 年 10 月 27 日（月）10:00 ～ 12:00
- 会 場 Web 開催（Zoom 使用）
- テ ー マ アジア諸国で開催される作業療法学会へ参加するために～学会相互乗り入れ方法について～
- 対 象 日本作業療法士協会員、海外参加協会の会員
- 言 語 英語（通訳なし）
- 参 加 費 無料
- 申し込み 右記 URL・二次元コードから申込フォームにアクセスしてください
- 参加協会 香港、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾、日本



<https://forms.gle/maa2bqtBAbnbMrM2A>

- スケジュール（予定）
 - 10:00 開会の辞
 - 10:05～10:55 香港、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾（各協会 10 分の発表）
 - 休憩
 - 11:00～11:45 ディスカッション、質疑応答、まとめ
 - 11:45 閉会の辞
- お問い合わせ 日本作業療法士協会 国際部 Email : dep.international@jaot.or.jp



オーティくん見学ツアーその3 「読み解きスコープ」(子ども領域) オープン!

制作広報室

皆さんは、もうご覧になりましたか？ オーティくん見学ツアーの最新作「読み解きスコープ」がオープンしました。早いもので、見学ツアーシリーズもその3となりました。今回は、子ども領域の作業療法を一般の方にわかりやすく解説しています。

今回は、オーティくんの弟クーファーが初登場！ 運動が苦手なクーファーが、作業療法士の観察とアドバイスで見事に鉄棒をできるように。

「めいちゃんが給食を食べられないのはどうして？」
「そらくんが教室から出て行ってしまうのはどうして？」
「さくらさんの笑顔どうしたら戻ってくるの？」

クーファーの鉄棒のほかにも、オーティくんには疑問がいっぱい。それを作業療法士が観察して、話を聞くと……。3つ

の事例を使って、子どもたちの困りごとを解説しています。

クーファーがつくった「ハットスコープ」という架空の道具を使って、文章だけではわかりづらい感覚の部分も含めて、作業療法士の視点を一般の方にもわかるように表現をしています。

このコンテンツをみた方が、子ども領域の作業療法の理解を深めること、また、事例をみて「もしかして、うちの子の行動にも何か原因があるのかも……？」と解決につながるヒントとなれば幸いです。

また、見学ツアーシリーズその3と同時にキャラクター紹介コンテンツもオープンしました。毎回、コンテンツ等ができると、キャラクターが増えるのも制作スタッフのひそかな楽しみでもあります。ぜひこちらもあわせてご覧ください。



●オーティくん見学ツアーその3
はこちら



5月21日、本会の新コンピュータシステム（以下、新システム）がリリースされました。新システムでは、「会員管理システム」「生涯教育システム」「士会システム」「会員ポータルサイト」等を一つのシステム、一つのデータベースに統合することによって、会員の皆様の利便性を高め、各種事業を一元管理することで事務局業務間の連携をスムーズに行えるようになりました。

本稿では2回に分けて、「ここが変わった」というポイントをご紹介します。今回は、施設情報担当者が利用する機能のなかで、新しく強化された機能をご紹介します。

●施設情報担当者とは？

会員の皆様がお勤めの施設の情報管理、協会からの施設に向けたアンケート調査や案内等の受付窓口等を担っていただく方です。1施設に1名、所属会員のなかから選任いただいております。

施設情報担当者に設定されている方は、会員ポータルサイトのメニューに「施設情報担当者」が表示されます。ご自身の勤務施設の施設情報担当者は、登録情報→勤務施設で確認ができます。

●施設情報担当者ができること

作業療法士学校養成施設

- ・施設の名称や住所が変更になった場合、変更申請ができる
- ・臨床実習ポイント申請

作業療法士学校養成施設以外の施設

- ・施設の名称や住所が変更になった場合、変更ができる

●新しく強化された機能

協会からの連絡を受信するメールアドレスの設定画面で、会員名簿に登録されているメールアドレスか、任意のアドレスを設定するか、選べるようになりました（図参照）。

【会員名簿メールアドレスを使用】を選択した場合

施設情報担当者の、会員名簿に登録されているメールアドレスが表示されます。

施設情報担当者に変更になった場合、後任者の、会員名簿に登録されているメールアドレスに自動で変更になります。

【施設共有メールアドレスを使用】を選択した場合

任意のメールアドレスが設定できます。施設内で供覧できるメールアドレスで協会からの連絡を受け取りたい場合は、こちらの設定をご利用ください。

この設定は、施設情報担当者に変更になっても、メールアドレスは引き継がれるため、担当者変更毎にメールアドレスの再設定は不要です。後任者に引き継がれることから、**個人のアドレスは設定しないでください。**

●現在の設定について

新システムへの移行に伴い、以下の設定となっております。

- ・作業療法士学校養成施設→施設共有メールアドレスを使用
- ・作業療法士学校養成施設以外の施設→会員名簿メールアドレスを使用

設定の変更を希望される場合は、会員ポータルサイトよりご変更いただきますよう、お願いいたします。



図 施設情報担当者のメールアドレス変更画面

教育セミナーってどんなもの？



第59回日本作業療法学会（高松）のご案内

作業療法の価値を高めるエビデンスの創出

会 期：〈現地開催〉2025年11月7日（金）・8日（土）・9日（日）

〈オンデマンド配信〉2025年11月7日（金）～2026年1月12日（月）

会 場：サンポートホール高松、かがわ国際会議場、あなぶきアリーナ香川

学会ホームページ：<https://ot59.umin.jp/index.html>

学会長：能登 真一（新潟医療福祉大学リハビリテーション学部）



教育セミナーで出会う、“根拠ある実践”の最前線

第59回日本作業療法学会のテーマは、「作業療法の価値を高めるエビデンスの創出」です。作業療法の意義や役割が改めて問われる現代において、このテーマは、私たちの実践に一層の科学的裏付けと社会的説得力を求める、まさに本質的な問いかけと言えるでしょう。本学会では一般演題に加えて、基調講演、教育講演、シンポジウム、国際企画プログラム、教育セミナー等、さまざまなプログラムが準備されています。そのなかでも、実践とエビデンスをつなぐ架け橋として注目されるのが「教育セミナー」です。本稿では「教育セミナー」の魅力についてご紹介します。

知識から知恵へ、そして行動へ

本大会の教育セミナーは、日々の臨床に直結する実践的な知識やスキルを深める場であると同時に、次世代の作業療法をかたちづくる“共創の場”として位置付けられています。本大会の教育セミナーの特徴は、「臨床現場の多様化に即したテーマ設定」と言えます。小児や高齢者、精神科、身体障害、地域支援からハイテク技術まで、まさに“作業療法のすべて”が網羅された構成となっています。

単なる知識の提供にとどまらず、臨床・教育・研究に携わる参加者が互いに学び合い、明日からの実践に活かせる“知の出会い”が期待されます。本年は3日間にわたり、全21テーマの教育セミナーが予定されており（テーマ一覧は表参照）、多様な領域・視点から作業療法の“根拠ある実践”を探究する機会が提供されます。

若手にも、ベテランにも学び多き場

教育セミナーは、若手作業療法士にとっては関心のあるテーマへの入口となり、ベテランにとっては知識の再確認やアップデートの好機です。たとえば、「作業療法の理論を学んでみよう」といった基礎の再確認から、「クリニカル・クラークシップによる臨床教育の現在と未来」のように教育者や指導者にとっても関心深いテーマがそろっています。さらに「半側空間無視の評価とアプローチのすべて」のような専門的な内容まで、幅広いニーズに応える構成となっています。また、「新しい生涯学修制度を活用しよう！」というテーマでは、作業療法士として“選ばれる存在”であり続けるための学び方そのものが問われます。キャリア形成の観点から見逃せないセミナーです。

表 教育セミナーのテーマ一覧

	テーマ
1	新しい生涯学習制度を活用しよう！―選ばれる作業療法士になるために―
2	発達性協調運動症と ADHD の作業療法ガイドラインの紹介
3	脳卒中上肢運動障害に対する作業療法の新展開：脳刺激と人工知能の応用可能性
4	「つくる」をつくる 3D プリンタ
5	児童思春期精神科の作業療法―成人と児童における摂食障害支援の構造の違いを通して―
6	高齢者の地域生活を支える作業療法の戦略と可能性
7	希少疾患と向き合う作業療法―膠原病と神経難病の実践―
8	臨床や研究で活用するための AI 入門
9	届けたい教育を地域とともに創る―学校作業療法の現状と発展―
10	うつ病治療の実践と研究が示す作業療法の有用性
11	非侵襲的脳刺激と反復運動の共鳴―経頭蓋磁気刺激と集中的作業療法が切り拓いた片麻痺上肢機能回復―
12	訪問における作業療法の真髄
13	作業療法の理論を学んでみよう
14	ハンドセラピーのトータルマネジメント―スプリントのススメー
15	アルツハイマー病の人に対する作業療法
16	クリニカル・クラフシップ（作業療法参加型）による臨床教育の現在と未来
17	半側空間無視の評価とアプローチのすべて
18	メンタルヘルスと産業保健における作業療法
19	脳腫瘍の作業療法―病態理解とその人らしさを支える生活支援―
20	作業療法における自動車運転と地域移動支援の現状と課題
21	回復期作業療法では何をすべきか

「テクノロジー×作業療法」から生まれる新たな根拠

AI や脳刺激、3D プリンタといった最先端技術との融合をテーマとしたセミナーも充実しています。たとえば、「脳卒中上肢運動障害に対する作業療法の新展開」や「非侵襲的脳刺激と反復運動の共鳴」では、最新の神経リハビリテーション技術と作業療法の統合が議論されます。また、「『つくる』をつくる 3D プリンタ」や「臨床や研究で活用するための AI 入門」では、現場での即応性と創造性の両立を追求する内容となっており、参加者に新しい視点と実践的なスキルを提供します。テクノロジーの進化が

作業療法の実践に密接にかかわる今、未来志向の視点を養ううえでもたいへん有意義なセミナーです。

地域・生活・社会に根ざした作業療法の証明

地域との連携や生活支援をテーマにしたセミナーも多数企画されています。「高齢者の地域生活を支える作業療法」「訪問における作業療法の真髄」「自動車運転と地域移動支援の現状と課題」等は、生活機能と社会参加の支援における作業療法の価値を、具体的な実践とともに提示する内容です。さらに、「児童思春期精神科の作業療法」



会場となるあなぶきアリーナ (写真手前) と高松シンボルタワー (奥の高層ビル)



ポスター発表会場および展示会場となるあなぶきアリーナ

や「うつ病治療の実践と研究が示す作業療法の有効性」、「メンタルヘルスと産業保健における作業療法」といった精神・発達領域においても、エビデンスと臨床の接点が多角的に語られます。これらのセミナーでは、制度や政策、地域との連携といった視点も含め、作業療法士が多職種や地域社会とどのように協働していくかが議論される予定です。まさに、人と社会をつなぐ作業療法の実践知が集結する場とも言えるでしょう。

高松で、学びと再会を

本学会の教育セミナーは、学術発表とは異なる「体験する学び」を得られる絶好の機会です。臨床での悩みが一つでもある方、今後のキャリアに悩みがある方、あるいは単に「何か新しいことを学びたい」と思う方にとっても、多様な刺激と気づきが得られる内容となっています。今回ご用意した21のテーマから、きっとあなたにとって“今、必要な学び”が見つかるはずです。高松の地で、全国から集う作業療法士たちとともに学びを深めるこの機会を、ぜひお見逃しなく。



講演会場となる国際会議場 (写真提供：香川県)

以上、今回は教育セミナーについてご紹介しました。詳細情報は準備が整い次第、学会ホームページにて随時お知らせしますので、ぜひご確認ください。多くの皆様に第59回日本作業療法学会へご参加いただけますことを、心よりお待ちしております。次回の学会 NOTE 第4回では「学会の見どころと番外編！」というテーマでお送りする予定です。次回もお楽しみに！

日本作業療法士協会 倫理委員長・元竹田健康財団 介護福祉本部長

太田 睦美

●読者の方からのご相談

私は現在の職場で作業療法士の主任として勤務していますが、人材育成やワークライフバランス、働きやすい職場づくり等で組織に貢献するために日々悩みながら過ごしています。

私の職場では、リーダー研修も毎年開催されスタッフに対する対応やコーチングスキル、リーダーとして何をしないといけないのか等、自己研鑽できる場があるため、日頃から意識して仕事をしています。しかし、若手のスタッフや中堅層のスタッフに対しての悩みも絶えません。中堅層のスタッフには、若手教育や小チームのリーダー等を担ってもらっていますが、なかなか中堅層に対しての教育がうまく進んでいません。問題解決がなかなかできなかったり、課題を見つけることができなかったり、リーダーや主任の指示待ちになることが多いです。これを改善していきたいのですが、①「自分で考える」というプロセスを経験してもらうためには、どういった方法がよいのでしょうか？

また、最近は仕事よりプライベート重視という若者が増えており、②「仕事に対してのパッションや主体性が低下しているスタッフが増えてきている」印象です。そんな若手スタッフに対して、③「ハラスメントにならないよう言い方に配慮して、あまり強く言えなかったりします」。時代に合わせて変化させていかないといけないことをわかっている役職者がかかわり方に難渋する場面も増えており、④「求めるところやゴール設定がどうしても低くならざるを得ない状況となっています。これでいいのでしょうか？

(兵庫県 M.K さん)

※編注：後述する個別回答している文を太字にして下線を付しています

はじめに

今回から読者の方からいただいた、組織マネジメントやお勤めの職場の課題についてのご相談、ご質問に回答していきます。今回は人材育成についてのご相談です。

質問者は、リーダーとしての自分は何をしなくてはいいかをキチンと自覚し、悩みながらも具体的に取り組んでおられます。これが職場をマネジメントすることの基本です。部下は、リーダーが苦慮しながらも努力している姿を常に見ています。きっと信頼関係ができているものと推測します。素晴らしいですね。

ご相談全体に対して

この世の中で最もわかりにくいもの、それは“人”です。複数の人のかかわりでつくり上げられている“職場”は、さらに複雑です。無理に答えを出そうとすると混乱してしま

ます。

このような時は鳥になって全体を見、目に映るものを絵にするといいです。所属する法人や職場によって違いもあるでしょうが、基本的には図1のような状況にあると思います。

次に、職場においてリーダーがなすべきことを、図2に示します。うち、3項目について説明します。

(1) 職場内職務分掌を整える

図1の等級規定等関係規定は、全職員に共通するものですが、職員にとっては、正直身近なものとして感じる事ができないし、等級規定と自分の業務とが密な関係にあるとも思えないでしょう。リーダーはこの距離感を少なくすることに取り組むべきです。

まず、A:職場内業務遂行環境（基本方針、職場ビジョン、中期・年度事業計画、業務改善計画等を整える）、B:職

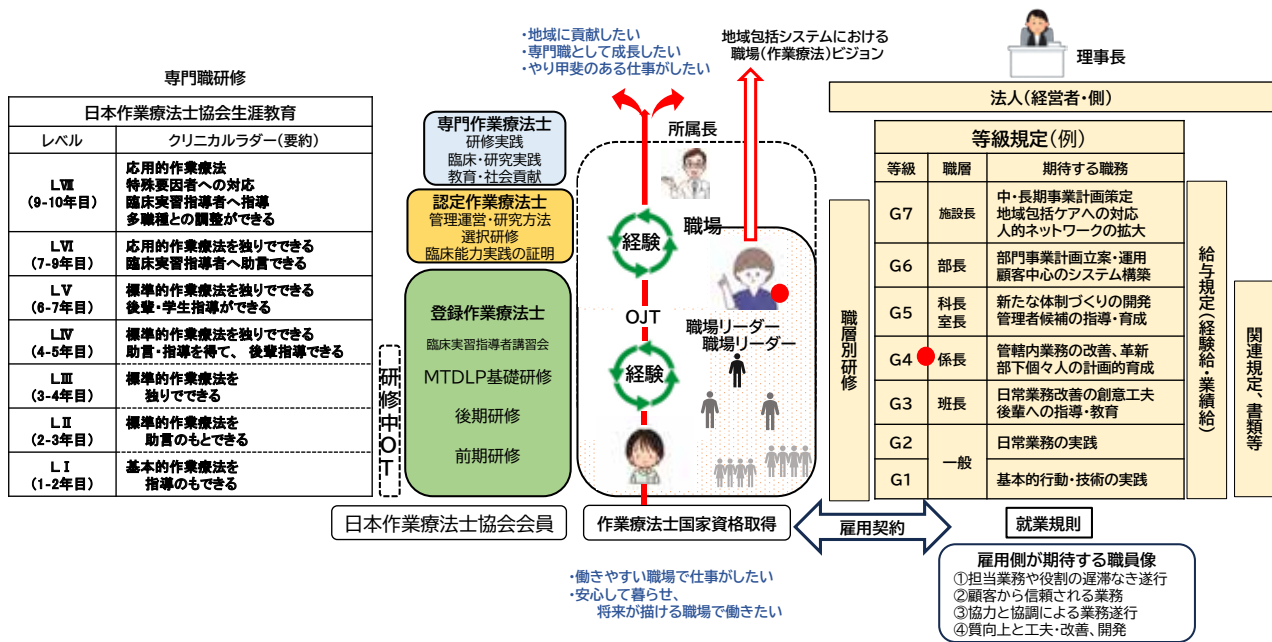


図1 人材育成に関する全体図

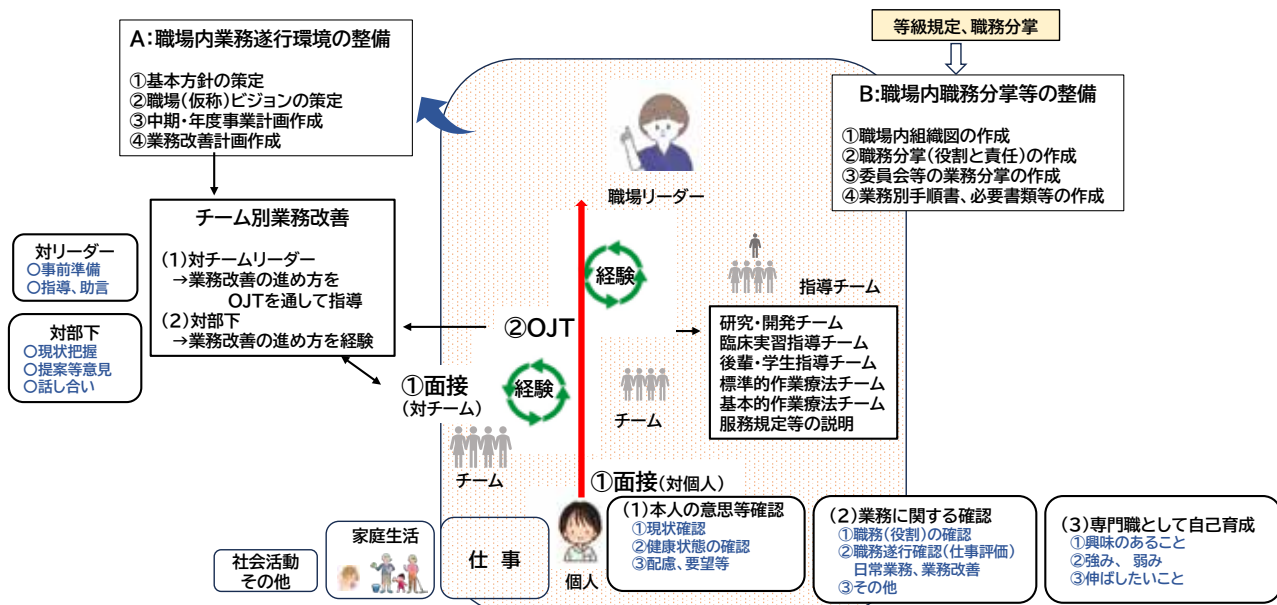


図2 リーダーが職場でなすべきこと

場における職務分掌等（職場内組織図、等級別職務分掌、委員会等の業務分掌、業務別手順書、必要書類等を作成する）を整備すべきです。

この環境整備により、職員一人ひとりが自分の立ち位置や役割、なすべきことを自覚しながら、準備されている手順書を活用して、独りで業務を遂行することができるようになります。また、A：職場内業務遂行環境の整備により、自分の仕事が、作業療法室の将来や職場ビジョンの実現化、顧客満足度向上、地域包括ケアシステムの実現化に寄与していると実感しつつ、毎日の仕事に取り組むことができるようになるでしょう。喜びややり甲斐も感じるでしょう。

(2) 面接（個人・チーム）を基礎にした人材育成に取り組む

MTDLPの基本理念である“本人のしたい生活行為の実現”には、まず「本人の望むことをお聴きする」ことにあります。このことは、作業療法の基本中の基本です。リーダーが人材育成においてまず行うべきことは、面接（個人・チーム）することです。

個人面接で、本人の思いや考えについて確認をすることから始めましょう。立場上、本人の仕事評価について取り上げることも必要ですが、その際もまず本人による振り返り・自己評価を中心に行うべきです。上司の一方的な伝達は評価結果の通告で終わってしまうので、本人の意欲を引き出すような働きかけとはなりません。逆に萎縮させたり、諦めを抱かせたりすることになってしまうことでしょう。

面接は、チームごとの業務改善の進め方をOJT（On-The-Job Training、オン・ザ・ジョブ・トレーニング）という手法で経験・修得してもらうためになくてはならない作業です。また、リーダーは面接を通して現場の状況を把握することができますし、業務改善へのアイデアを伺うことができます。メンバーに当事者意識を向上させ、チーム内の協力関係も向上することでしょう。

(3) 組織的 OJT による人材育成を進めましょう

OJT とは、実際に仕事の実務をこなしながら学んでいく手法で、効果的な研修方法です。一般的には、同じ部署の先輩が教育係として付き、「やってみせる」→「説明する」→「やらせてみる」→「確認する」の4段階で行うでしょう。しかし、現行の進め方では、教育係の指導・教育技能の差や相性に左右されやすく、1対1の濃い人間

関係等による負の影響があることも懸念されます。

さらに、“知識は豊富だが実体験に乏しい（経験が貧弱）”という特徴をもつ現代の若者を指導するには、「**まず手順を説明する**」→「**説明しながら、やってみせる**」→「**口に出しながら、繰り返しやらせてみる**」→「**日常業務で繰り返す・させる**」→「**本人と指導者が互いに確認し合う**。不足があれば質問・追加指導する」→「**している状態（日常業務化）になっているか最終確認する**」という方法に修正し、②**計画的で組織的な OJT**（「教育・指導の目的を明文化すること」、「基本的な考え方、標準的な手順書、実施説明書等を準備すること」、「1対象者×1教育担当者＋教育係チーム（リーダー配置）等組織的に実施すること」、「指導者チーム内での定期的な振り返りと情報交換を行うこと」）へと進化させるべきと考えます。

個別のご質問事項への回答

質問①

中堅層に対しての教育がうまく進んでいません。問題解決がなかなかできなかったり、課題を見つけることができなかったり、リーダーや主任の指示待ちになることが多いです。これを改善していきたいのですが、①**「自分で考える」というプロセスを経験してもらうためには、どのような方法がよいのでしょうか？**

回答①

先述したように、“環境の整備”と“チーム面接”、“計画的・組織的な OJT による人材育成”の3つを行えば、きっと改善するでしょう。最初は「手取り、足取り指導する」、次に「一緒に取り組む」、そして「見守り、時に助言する」、最後は「確認、援助を求められたときのみ助言」という姿勢で進められることをお勧めします。

質問②～④

最近の仕事よりプライベート重視という若者が増えており、②**仕事に対してのパッションや主体性が低下しているスタッフが増えてきている**印象です。そんな若手スタッフに対して、③**ハラスメントにならないよう言い方に配慮して、あまり強く言えなかったりします**。時代に合わせ変化させていかないといけないことをわかっている役職者がかかわり方に難渋する場面も増えており、④**求めるとこ**

ろやゴール設定がどうしても低くならざるを得ない状況となっています。これでいいのでしょうか？

回答②

現代の若者が育ってきた時代は、「まず指示があり、次に手順説明、次に実行……」という環境です。また、「できるだけ失敗させない、傷つかせない」という“過干渉気味のかかわり方”という環境下で育ってきました。確かに、自ら課題を見つけて行動するという意味での主体性が弱くなり、指示待ちの傾向が強くなっているのかもしれませんが。しかし、現代の若者達のあり方は、その環境に適応しようとして一生懸命生きてきた結果としての姿である、と思います。

では、どうすればいいのでしょうか。対応方法は2つです。1つは、“指示されるのを待っている”のですから、指示してあげればいいのです。指示下でできるようになって自信が溢れ出したら、指示する際の範囲や段階を上げていき、いつか独りでやり遂げるようになればいいのです。2つには、「面白さ」です。「面白い」ということをたくさん経験させることです。部下が何に「面白さ」を感じるのか、先述したように面接のなかで聴き取るようにしてみてください。

回答③

大丈夫です。自信をもって注意・指導してください。ハラスメントは、2人以上の関係性において生じる摩擦や軋轢、被害等のことですが、職場におけるハラスメントは、厚生労働省の「職場におけるハラスメント防止強化対策」で説明されているように、「職場において行われる①優越的な関係を背景とした言動であって、②業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、③労働者の就業環境が害さ

れる」もので、①～③までの要素をすべて満たすものを言います。他方、「客観的にみて、業務上必要かつ相当な範囲で行われる適正な業務指示や指導については、該当しません。」とありますので、指導や注意する際に、上司や先輩方が萎縮する必要はありません。ただし、業務以外の一般的なかかわり方においても、職場で注意・指導する際においても、相手の人権に配慮すること、時代の流れに合わせ変化させることは必要です。

回答④

求めるところやゴール設定が低くなってしまうのは、やはり望ましくありません。あくまでも本人の等級格付けに見合う業務遂行を示し、求めるべきです。理由は、職員は雇用契約により従業者としての位置付けにあり、賃金に見合った業務を履行する義務があるからです。ただし、注意が必要です。義務履行としての業務ほど“面白くない”ものです。部下にとっては“面白く仕事ができている”、経営者にとっては業績を上げているというようなマネジメントに近づこう、少しずつ取り組んでいきましょう。

おわりに

職場の経営・管理（職場マネジメント）に「この方法が正解」とか、「これで完成」ということはありません。「みんなで力を合わせて、面白いことをやろう、より良いもの創り上げよう」と思って働くことが基本です。「100点満点中の〇〇点」という尺度も大事でしょうが、「昨日よりは今日」、「より良いものを創り上げた喜び」という視点は、もっと大事にしたいと思います。

2025 年度以降に本会へ新規入会された皆様へ
～「登録作業療法士」取得に向けての实地経験について～

本会では、2025 年度以降に新規入会された会員の皆様が、「登録作業療法士」の取得を目指しながら、实地経験を積み重ねていくことで、着実にキャリアを形成していくことを期待しています。今回は今年度から本会に入会された方に向けて、この「实地経験」について解説します。

实地経験とは

登録作業療法士制度における「实地経験」とは、**作業療法士としての現場での経験そのもの**を指します。これを生涯学修の、登録作業療法士になるうえで必要なプロセスの一つとして据え、積極的に評価するものです。研修を受ける作業療法士は、**自施設内での研修・実践経験に加え、自施設外での研鑽経験を重ねながら、5 年間（前期 2 年+後期 3 年）にわたって实地経験を積み重ねていってください。**5 年間の实地経験で身に付けてほしいのは、**標準的な作業療法を独力で実践する力と、それを後輩や学生に指導する力**です。この期間中、**上位者の助言・指導・確認**を受けながら、これらの力を段階的に修得していくことが目標になります。

まずは動画で理解を深めましょう。以下の協会公式 YouTube 動画をご覧ください。制度の全体像や实地経験の進め方をわかりやすく解説しています。

「实地経験」にかかわる人とその役割

实地経験は、研修・研鑽を進めている作業療法士（研修中作業療法士）のほかに、研修者に指導・助言を行う「上位者作業療法士」、研修者が修了レベルにあるかを確認する「前期研修・实地経験修了確認者」がかかります。

研修中作業療法士は**自己チェックリスト・目標自己管理シート**で上位者作業療法士と情報を共有し、**進捗を確認してもらいながら、段階的にサポート**を受けられます。

前期研修 2 年目（要会員歴 2 年以上）以降であれば、研修中の作業療法士は**实地経験修了確認者**からいつでも**实地経験修了の確認**を受けることが可能です。**实地経験修了確認者とともに、前期研修实地経験修了確認表で前期研修の实地経験修了を確認します**（ただし、前期研修を修了し、会員歴が 3 年目以降でなければ後期研修を受講することはできません）。

お勤めの施設で、上位者作業療法士と**实地経験修了確認者**をどなたが担当しているのか、ぜひ確認しておいてください。もしお勤めの施設で上司や先輩となる作業療法士がいない場合は、上司に当たる方にご相談ください。また、实地経験修了確認者を担当する人がいない場合については、後ほどご説明します。



●生涯学修制度 PV 動画は
こちら



●生涯学修制度の説明動画は
こちら



●实地経験の説明動画は
こちら

表 1 実地経験に使用するツール

	【協会版ツール】	使用目的
①	実地経験 自己チェックリスト	研修中作業療法士が実地経験の進捗を自己管理するため、実施可能となった事項を自己チェックする
②	実地経験 目標自己管理シート	研修中作業療法士が実地経験において修得すべき知識、技術、態度、研鑽経験などの目標を具体的、段階的に設定し、進捗を自己管理する
③	前期研修 実地経験 修了確認表	研修中作業療法士が、前期研修・実地経験を修了したことを実地経験修了確認者とともに確認し、協会 LMS システムに提出する

◆①、②は【協会版】でなく、【自施設版】の新人教育ツール等を使用しても良い

◆③は、研修中作業療法士全員が共通に使用する

実地経験で使用するツールとは

前段で①自己チェックリスト・②目標自己管理シート・③前期研修実地経験修了確認表について触れました。これら3種類のツールに相当するものをお勤めの職場で用意している場合もありますが、協会でも用意しています（表1）。実地経験ツールの使用方針として、③のみ研修中作業療法士全員が共通で使用し、①・②については「日本作業療法士協会版」か「自施設版」のいずれかを選択して用いてください。これらのツールは協会ホームページでダウンロードできますので、ぜひご活用ください（会員向け情報＞教育関連＞生涯教育＞「研修中作業療法士／上位者作業療法士／実地経験修了確認者の方へ」の項目をご覧ください）。

実地経験の手順（前期研修）

では、差し当たって皆さんが取り組むことになる前期研修を中心に、実地経験の進め方を確認していきましょう。

●研修中作業療法士・上位者・実地経験修了確認者の実施事項

自施設内での前期実地経験は、下記（1）～（5）の手順で進みます（図1）。

（1）実地経験に使用するツールの選択

研修を受ける作業療法士は、上位者作業療法士の指導・助言を得て、使用するツール（「日本作業療法士協会版」または「自施設版」）を選択します。

（2）目標自己管理シートの作成

研修を受ける作業療法士は、目標自己管理シート（あ

るいは、それに該当するもの）を作成します。この時、上位者作業療法士に、各々の施設・組織に適合する目標自己管理シートの作成をサポートしてもらい、研修中作業療法士と上位者作業療法士で目標と具体的行動について確認し、合意のもとで目標自己管理シートをつくり上げてください。

（3）自己チェックリスト、目標自己管理シートを使用した実地経験の遂行

研修中作業療法士は、上位者作業療法士等の指導・助言を得て、実地経験を進め、自分ができるようになった項目とレベルを自己チェックリストに記入していきます。

（4）定期的な振り返り（概ね半年ごと）

研修中作業療法士は、概ね半年程度の期間ごとに、自己チェックリストと目標自己管理シートを用いて目標達成度を振り返り、次の期の目標と具体的行動を計画します。この時、上位者作業療法士から確認・指導・助言をもらいましょう。

（5）実地経験修了確認表を使用した前期実地経験修了確認と提出

前期研修における実地経験の2年目には、研修中作業療法士と実地経験修了確認者が、実地経験修了確認表を用いて、実地経験修了の相互確認を行います。

なお、この手続きには、自施設・組織内に実地経験修了確認者がいる場合といない場合で、研修中作業療法士が行うべき自施設外研鑽回数と提出方法が異なります。

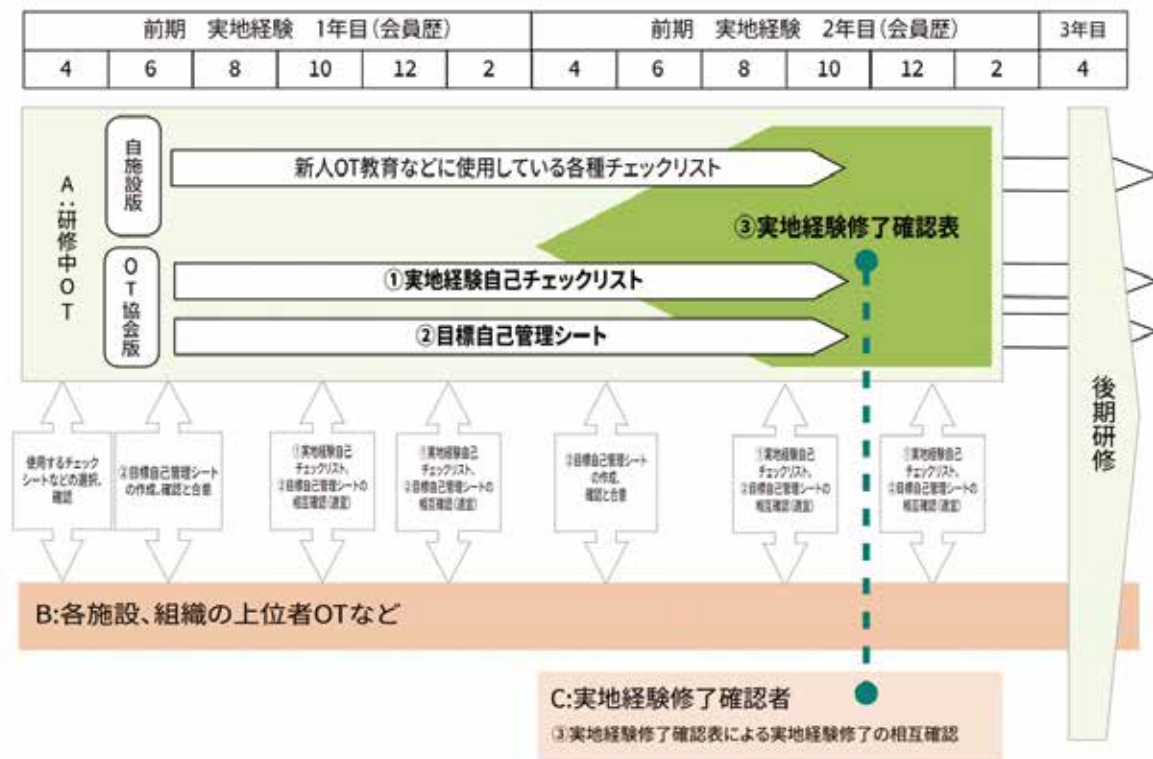


図1 実地研修(前期研修)のスケジュール感

(6) 後期研修の開始

前期研修を修了し、会員歴が3年目に入ると後期研修が始まります。後期研修では、登録作業療法士の到達目標である「標準的な作業療法プロセスに従い、独力で作業療法を実践し、後輩や学生を指導できること」を目指し、自己チェックを行いながら実地経験を積みま

す。以上の自施設外研鑽を証明する書類とともに、自己記入した自己チェックリストのコピーを提出することで、実地経験修了確認表の提出に代えることができます。

前期実地経験中の自施設外研鑽「必須回数」について

すべての研修中作業療法士は、前期実地経験中の自施設外研鑽として、所属する都道府県作業療法士会の学会や研修会に、2回以上参加することが必要です。これは、前期実地経験修了確認を受けるための必須条件です。

ただし、前期実地経験修了確認者が自施設・組織内にいない場合は、さらに2回以上の基礎ポイントに該当する学会や研修会に参加することも必要です(表2)。合計4回

前期研修実地経験の修了時の手続きについて(図2)

前期研修2年目以降であれば、実地経験修了確認者とともにいつでも実地経験修了の確認を受けることが可能であることは先述しました。前期実地経験修了時の手続きは自施設や組織内に実地経験修了確認者がいる場合とない場合で、自施設外研鑽回数と提出方法が異なります。

自施設や組織内に実地経験修了確認者がいる場合は、研修中作業療法士が実地経験修了確認表をCloud Campusに提出してください。いない場合には4回以上の自施設外研鑽の受講を証明する書類と実地経験自己チェックリストコピーをCloud Campusに提出してください。

表 2 自施設外研鑽の必須回数

さまざまな研鑽経験	
実地経験における自施設「外」研鑽経験	その他
協会の定める規定により、 基礎ポイント付与に該当 する学会、研修会等※	基礎ポイント付与に 該当しない 学会、研修会等
※基礎ポイント付与に該当する学会、研修会であるか否かは、協会ホームページ>会員向け情報>当該教育>基礎ポイントについてを確認してください。また、SIG等認定一覧から、研修主催団体が登録されていることを確認してください。	
前期研修実地経験中の自施設「外」研鑽経験と必須回数	
実地経験における自施設「外」研鑽経験 (基礎ポイント付与に該当する学会・研修会等)	自施設・組織内に実地経験修了確認者の有無
	あり なし
1) 所属する 各士会主催・共催 の学会や研修会等	前期研修実地経験中の研鑽の必須回数は…
2) 基礎ポイント対象の学会や研修会等	
3) 学校養成施設が開催する研修会等	
	1)を2回以上 1)は2回以上かつ合計4回以上

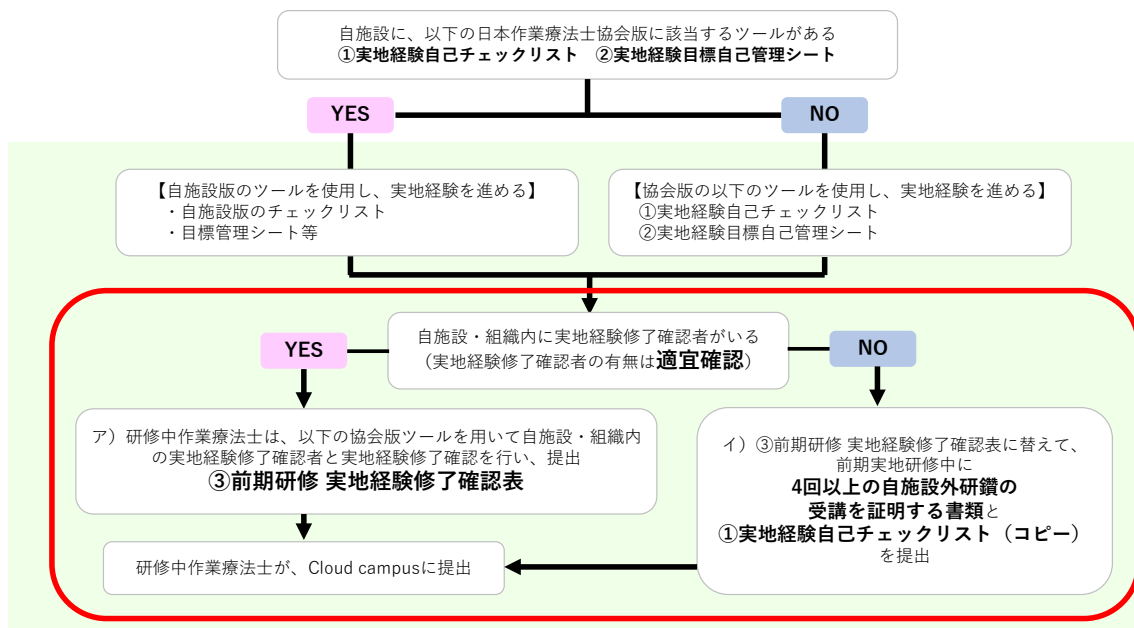


図 2 前期研修実地経験修了時の手続き方法

<お問い合わせ先>

- 前期研修講義（e ラーニング）視聴に関するお問い合わせ ot-kenshu@jaot.or.jp
- 登録作業療法士制度全般のお問い合わせ ot-syougaiyouiku@jaot.or.jp



事務局からのお知らせ

休会に関するご案内

現在は2026年度（2026年4月1日～2027年3月31日）の休会を受付中（提出期限は、2026年1月31日到着分まで）です。休会制度の詳細および「Q&A」については協会ホームページをご覧ください（協会ホームページ>会員向け情報>諸手続き）。なお、2026年度の休会を申請する方は2025年度の年会費をご納入のうえ、会員ポータルサイトよりご申請ください。そのほかご不明な点は協会事務局（kaiinkanri@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

◎ 2025 年度会費をまだご納入いただけていない皆様へハガキをお送りしました

7月末までに2025年度会費をご納入いただけなかった方へ協会事務局より「会費納入のお願い」ハガキをお送りしています。このまま年度末（2026年3月末）までに年会費のお支払いがありませんと会員資格を喪失し、現在の会員番号は使用できなくなり、なおかつ協会在籍履歴、生涯教育受講履歴もすべて抹消されます。また協会に再入会を希望される際は複雑な手続きが必要になりますので、そうならないためにも、早めに会費のご納入をお願いいたします。

振込用紙を紛失された方や、金額が不明な方は協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

なお、会費納入状況や会員証については協会ホームページの会員ポータルサイトにログインをすることでいつでもご確認いただけます（会費納入状況の確認方法：協会ホームページ>会員ポータルサイト>登録情報>会員情報>会費納入状況）。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に郵送物等をお送りすると、既に退職済みとのことで返送されてくることがあります。また、発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、古い勤務施設の登録が残ったままになっていることがあります。協会にご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断します。会員登録情報は、さまざまな統計の重要なデータになりますので、ご自身の登録している勤務施設情報が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願いいたします。また、施設等の変更はなくても、年に1回はご確認ください。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし「基本情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方はパスワードを再発行することができます（協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードを忘れた方はこちら）。

※登録情報の変更は、変更届の郵送、FAX、メール添付によっても受け付けています（協会ホームページ>諸手続き>変更届）



各部・室の動き

教育部

● 2024 年度までに入会した会員の皆さんへ 登録作業療法士前期研修 e ラーニング講座試聴のご案内

登録作業療法士前期研修 e ラーニング講座は、2025 年度以降の新規入会者が登録作業療法士を取得するための講座です。しかし、視聴履歴登録や基礎ポイント付与はありませんが、2024 年度までに入会した皆さんも新人の作業療法士がどのような内容を学んでいるのかを知るために、また、自己研鑽の一つとして活用していただくために、無料で視聴できるようにしております。是非ご覧ください。

【Cloud Campus の使い方】

e ラーニング講座の受講にあたっては、配信システム「Cloud Campus」を使用します。

■ログイン可能時期について

8 月 15 日から試聴できます。

■ログインの流れ

① <https://ccampus.org/> にアクセスする

② 以下の 3 つを入力してログイン

・サイト ID : jaot

・ログイン ID : jaot-xxxxxx (「xxxxxx」にはご自身の 6 桁の会員番号(5 桁以下の番号の方は頭に 0 をつける。例: 会員番号が xxxx の場合は「jaot-00xxxx」)を入力してください)

・パスワード: ご自身の生年月日 8 桁(半角数字で入力。例: 2000 年 4 月 1 日生まれは「20000401」)

■ログイン後のお願い

初回ログイン後は、必ずご自身でパスワードを変更してください。

地域社会振興部

地域社会振興部災害対策課では 9 月に以下に記載の 2 事業を実施予定です。詳細は都道府県作業療法士会の事務局・災害対策担当者様宛に改めてご連絡いたしますので、参加協力をよろしくお願いいたします。

●士会・協会災害対策担当者情報交換会の開催について

「士会・協会災害対策担当者情報交換会(2024 年度より開始)」を 9 月 27 日(土) 午後オンラインで開催いたします。本会と都道府県士会との連携はもとより、ブロック内・ブロック間、さらには近隣都道府県士会との相互連携を強化することを目的としております。

今回は、昨年度の取り組みをふまえ、各ブロックにおける連携体制の現状を振り返るとともに、さらなる連携強化に向けた意見交換を行う予定です。また、過去に被災を経験した都道府県士会からの講演も企画しており、実際の災害対応を通じた連携の必要性について学ぶ機会としたいと考えております。

ご多用のところ恐縮ではございますが、各士会のご担当者におかれましては、ご参加の調整をお願いいたします。

●災害シミュレーション訓練について

「災害シミュレーション訓練」を作業療法の日(9 月 25 日)に実施します。各士会で実施する安否確認は、有事の際に本会が「被災地の状況を把握し、必要な支援企画を立案・遂行するため」に非常に重要な情報となります。そういった観点から、平時のシミュレーション訓練の実施はたいへん重要です。

2018 年から毎年災害シミュレーション訓練を実施(各地域で大規模災害が発生したという想定)しておりますが、昨今の災害状況を鑑み、都道府県士会と本会との協力体制をよりスムーズにするため、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。過去の参加状況は、表をご参照くださいませ。

表 過去の実施状況(参加士会)

2018 年度	37 士会
2019 年度	44 士会
2020 年度	43 士会
2021 年度	46 士会
2022 年度	47 士会
2023 年度	45 士会
2024 年度	44 士会

※不参加の士会には、実災害への対応のため不参加となった士会も含まれる

本誌第 160 号に関するお詫びと訂正

本誌第 160 号(2025 年 7 月 15 日発行)の「2025 年度第 2 回定例理事会 抄録」p.48 右段 6 ~ 8 行目にかけて下記の誤りがありましたので、訂正いたします。大変失礼いたしました。深くお詫び申し上げます。

誤	正
6) 関本充史常務理事 (1) ホームページリニューアルについて 書面報告 (2) 次年度重点課題研修企画および e ラーニングコンテンツの他部署起案募集について 書面報告 (3) 訪問リハビリテーション振興委員会/訪問リハビリテーション振興財団報告 書面報告	6) 関本充史常務理事 (1) ホームページリニューアルについて 書面報告 (2) 訪問リハビリテーション振興委員会/訪問リハビリテーション振興財団報告 書面報告



2024 年度 教育関連認定審査結果

2024 年度 専門作業療法士認定審査結果

以下の会員を 2024 年度に専門作業療法士として認定したことを公示する（太字は新規取得者）。

※所属都道府県名は 2025 年 5 月 12 日現在の会員登録情報

〔福祉用具〕 4 名	田中 勇次郎（東京） 松元 義彦（鹿児島）	林 正春（静岡）	山田 隆人（大阪）
〔認知症〕 4 名	明福 真理子（石川） 西田 征治（広島）	中島 龍彦（岡山）	久野 真矢（広島）
〔手外科〕 9 名	越後 歩（北海道） 志水 宏行（神奈川） 藤目 智博（新潟）	白石 英樹（茨城） 谷村 浩子（京都） 蓬萊谷 耕士（大阪）	斎藤 和夫（埼玉） 齋藤 慶一郎（京都） 石井 誠二（香川）
〔特別支援教育〕 2 名	佐々木 清子（東京）	米持 喬（大阪）	
〔高次脳機能障害〕 3 名	早川 裕子（神奈川）	川原 薫（広島）	原 麻理子（福岡）
〔精神科急性期〕 1 名	香山 明美（宮城）		
〔摂食嚥下〕 3 名	神作 一実（埼玉）	寺本 千秋（和歌山）	植田 友貴（佐賀）
〔訪問作業療法〕 1 名	小林 大作（和歌山）		
〔がん〕 2 名	石井 陽史（北海道）	三浦 裕幸（青森）	
〔就労支援〕 2 名	馬場 順子（群馬）	平原 由梨子（山梨）	
〔脳血管障害〕 10 名	菅原 光晴（東京） 池上 正斗（長野） 森脇 善幸（山口） 豊栄 峻（鹿児島）	稲田 雅也（神奈川） 藤原 謙吾（京都） 須崎 有信（熊本）	廣瀬 卓哉（神奈川） 神尾 昭宏（大阪） 後藤 啓士郎（熊本）

以上 41 名（新規 11 名 更新 30 名）

2024 年度 認定作業療法士認定審査結果

以下の会員を 2024 年度に認定作業療法士として認定したことを公示する（太字は新規取得者）。なお、2024 年度申請者のうち、2025 年度になって審査を受けた者は含まれない。

※所属都道府県名は 2025 年 5 月 10 日現在の会員登録情報

〔北海道〕	大井 雅人 朝倉 真未 鈴木 渉 田中 将司 曳田 憲昭 村口 英恵 石井 幸美 菊地 航平 大和 吉郎 村上 知征 川野辺 穰 赤沼 昇也 渡辺 香苗 山内 麻実子 片岡 信宏 金子 哲也 佐々木 忠啓 常盤 右匡 鈴木 一広 花房 謙一 根岸 昌 東ヶ崎 裕 倉澤 直樹 田染 佐夏 小島 好 市村 将家 但野 修理 平野 博文 古賀 誠 中里 和也 山本 潤 長谷川 拓 齋藤 潤孝 米山 智彦 本間 健太 黒川 喬介 樋口 朋子 務台 均 木下 僚介 高多 真裕美 北村 祐樹 水上 保孝 大下 琢也 坂田 崇好 高木 克実 中村 每途 河村 章史 安部 美和 伊藤 竜司 丸山 真輔	宮本 実 大本 慎也 佐藤 英樹 山岸 祐太 阿部 来夢 竹内 利貴 西村 信哉 佐藤 瞭 橋本 円 今野 梓 米野 詠貴 矢内 昌子 小野寺 志織 渡邊 信也 坂田 尚昭 永田 玲奈 小林 昭博 安永 雅美 古津 政明 宮脇 佑太 野崎 貴裕 青木 裕子 藤江 泰子 菅谷 和香菜 山元 直道 板井 謙太 小砂 哲太郎 清水 拓人 内原 基成 田中 秀和 有田 健吾 武田 智徳 山崎 健斗 清水 寛己 赤羽 陽子 宮崎 翔 永井 亜希子 杉本 優輝 仲辻 良仁 井上 忠俊 黒飛 陽平 菅尾 優 柳瀬 敦志 宗像 沙千子 小林 由衣 片山 妙恵	小玉 武志 久保 勝幸 高島 理沙 駿河 勇太 森元 彩子 柴田 薫 伊藤 明海 佐々木 智里 佐藤 祐樹 境 恵里 稲葉 将太 松坂 伸行 野口 直人 館岡 周平 鷹埜 行和 野口 晴康 岩瀬 大樹 原田 薫 尾中 寿江 竹本 龍太 石井 ハル 佐久間 大輝 増田 雄亮 佐野 邦典 山口 拓也 牧山 大輔 大平 弘樹 小川 麻里子 黒田 愛理花 森田 康紀 川崎 愛 前田 美保 山田 英二 立川 真也 那須野 利喜 石切山 淳一 萬屋 京典 伊藤 篤史 赤坂 竜一 富高 史裕	宝田 光 佐々木 努 荒井 英俊 今西 優美 山本 太地 中居 真紀子 高田 亜友美 加賀美 夏穂 高田 善栄 植田 悠 岩本 記一 坂本 悠介 本川 惇平 地曳 真美 糸川 悦子 篠原 真矢 本田 拓也 小林 勇基 長尾 宗典 久世 慎太郎 丸山 祥 井本 裕堂 宇都宮 裕人 早坂 早紀 田畑 智 三瀬 和彦 小林 和宏 袋井 かおり 樋田 貴紀 尾崎 勝彦 村上 大祐 中西 康祐 清水 一輝 恩田 真也 水端 大貴	曽我部 和則 野田 正貴 武山 雅代 松崎 将哉 三原 孝太 太田 康介 滝沢 悠 蛭原 勝也 山下 優 寺尾 博幸 東海林 朋美 立川 智也 川嶋 遙 岡野 朋子 白石 めぐみ 野口 智裕 武田 恵美子 村仲 隼一郎 佐藤 範明 猿爪 優輝 上羽 航 平澤 利博 米山 敦 大塚 りさ 五十嵐 満哉 山本 和雅 鴨藤 祐輔 阿部 祐子 山本 幸希子 小林 直樹
-------	---	---	--	---	--

〔三 重〕	豊田 志奈子	福井 麻貴	草川 裕也	久保 雅邦	鬼頭 亜希
〔滋 賀〕	竹内 元輝	萩野 創			
〔京 都〕	脇野 充弘	竹内 章子	南部 計	真下 いずみ	我妻 朋美
	平本 憲二	石橋 加奈子			
〔大 阪〕	川崎 一平		川村 明代	大野 力	岡本 陽子
	椎木 洋子	松島 佳苗	木下 亮平	大西 慶彦	近江 孝之
	武平 孝子	高野 隼	三木 直人	松下 真拡	辻村 肇
	宮本 年也	今 かおり	花田 恵介	山本 敦子	中川 友紀
	由利 禄巳	藤野 祥二	遠近 太郎	渡部 雄太	三上 泉
〔兵 庫〕	泰永 雅子	坂口 宏彰	山本 安里子	磯野 佐恵	細川 雄平
	福井 大介	北田 泰敏	打田 明	末吉 謙斗	穴戸 聖弥
	大道 克己	佐平 安紀子	松本 圭太		
〔奈 良〕	前西 広太	佐藤 央基	田中 陽一	吉村 友希	西田 裕司
	西井 正樹	木納 潤一			
	吉富 侑華里		鈴木 浩之	西嶋 彬	尾崎 友紀
〔和歌山〕	畠山 泰志	宮井 良太	射場 靖弘		
〔鳥 取〕	北山 朋宏	鬼木 徳子			
〔島 根〕	山本 真理子	古田 翔太			
〔岡 山〕	徳地 亮	十河 正樹	小坂 美江	佐野 裕和	山下 徹郎
	平田 淳也	吉村 学	寺岡 睦	野口 卓也	中澤 太志
	古崎 勝也	井村 亘	阿部 誠	山形 隆造	渡邊 寛恵
〔広 島〕	片岡 紗弓	栃尾 健介	樋之津 健二	岡野 真也	有田 幸平
	金子 史子	金友 正道	山崎 隆二	池内 克馬	和田 文香
	児玉 努	後藤 直哉	渡邊 哲也	深江 亜希子	奥村 浩一
	藤村 裕介	福原 淳史			
〔山 口〕	齊藤 隆一	大田 茂臣	岡藤 農	田中 伸二	小田 隆史
	今村 陽子	塩金 広大	三坂 純	原 直利	上谷 昌次
	上田 純也				
〔徳 島〕	上田 裕久	永野 達郎	大前 博司		
〔香 川〕	楠原 敦子	谷渕 加奈子	多田 晃平	馬場 広志	三木 智代
〔愛 媛〕	菅 隆一	高岡 宏	川崎 祐太郎	中迫 紀彦	白方 一範
	加藤 真弘	町尻 拓真	一色 学		
〔高 知〕	稲富 惇一	公文 啓人			
〔福 岡〕	坂下 竜也	吉岡 奈々	江口 喜久雄	佐野 伸之	國武 亜由美
	中村 泰等	竹本 朋子	谷崎 恵里	前田 竜也	平岡 航平
	本荘 康太郎	小窪 雄介	牛尾 篤史	伊藤 雅史	古海 賢人
〔佐 賀〕	松石 健一郎	佐古 英樹	田代 裕太		
〔長 崎〕	桑原 由喜	秋山 謙太	岩永 祐一	高橋 弘樹	武田 芳子
	廣吉 麻衣子	坪田 優一			
〔熊 本〕	松浦 篤子	宮本 忠司	坂田 亮	西 聡太	田中 龍太郎
	小手川 耕平	大塚 開成	瀬野 浩二	中村 篤	西山 彰浩
	今田 吉彦	坂本 佳	江原 加一	吉永 貴博	木原 翔太
	原田 茂明	村田 美希	和田 真	満丸 行矢	
〔大 分〕	安東 拓美	自見 美菜	上田 悠豊	中島 慎介	
〔宮 崎〕	中田 富久	前田 翔吾			
〔鹿児島〕	植村 健一	小串 貴之	酒井 宣政		
〔沖 縄〕	玉那覇 迅	土田 真也	澤田 歩	與谷 和真	

以上 388 名 (新規 206 名 更新 182 名)

2024 年度 臨床実習指導者実践研修修了認定結果

以下の会員は 2024 年度に臨床実習指導者実践研修を修了したことを公示する。

※所属都道府県名は 2025 年 5 月 9 日現在の会員登録情報

〔北海道〕	北村 憲洋	三野宮 裕樹			
〔青 森〕	相馬 雅之				
〔宮 城〕	菅原 仁志				
〔福 島〕	佐藤 志保	富岡 真一	渡部 祐介		
〔茨 城〕	阿部 あずさ				
〔埼 玉〕	山内 雅斗	鷹埜 行和			
〔千 葉〕	児玉 広賢				
〔東 京〕	熊代 有希枝				
〔神奈川〕	佐藤 範明	中里 謙吾	井本 裕堂	山口 拓也	
〔新 潟〕	相澤 友之				
〔富 山〕	河井 恵介				
〔静 岡〕	本間 侑加	千葉 梢			
〔愛 知〕	赤坂 竜一	杉山 智久			
〔京 都〕	石橋 加奈子				
〔大 阪〕	安井 憲一郎	松下 真拡	大田 哲也	宇多 久志	中尾 太一
	南 庄一郎				
〔島 根〕	石倉 健一	増崎 堅斗			
〔岡 山〕	平田 淳也	佐野 裕和	野口 卓也	岡野 真也	
〔山 口〕	岡藤 農				
〔香 川〕	高木 章宏				
〔福 岡〕	蘭 文雄	下門 範子			
〔長 崎〕	東原 太一郎	池田 佳宏			
〔熊 本〕	高木 ひとみ				

以上 42 名（2 名非公開）

2024 年度 運転と地域移動支援実践者認定結果

以下の会員を 2024 年度に運転と地域移動支援実践者として認定したことを公示する（太字は新規取得者）。

※所属都道府県名は 2025 年 5 月 8 日現在の会員登録情報

〔北海道〕	木下 和海	岩井 慶士郎	
〔群 馬〕	小川 佳範	水越 竜司	
〔千 葉〕	倉澤 直樹		
〔東 京〕	天内 将広		
〔神奈川〕	竹井 隆晟		
〔富 山〕	脊戸 勇輝	森田 康紀	佐々井 希
〔石 川〕	五十嵐 満哉	田中 聡士	
〔静 岡〕	東川 裕輝	大塚 幸二	
〔愛 知〕	山本 侑希		
〔奈 良〕	金星 聡		
〔和歌山〕	井溪 治斗		
〔福 岡〕	後藤 由美子		
〔熊 本〕	宮川 伶		

以上 19 名

2024 年度 臨床実習指導施設認定審査結果

以下の施設を 2024 年度に臨床実習指導施設として認定したことを公示する（青文字は新規取得施設）。なお、2024 年度申請施設のうち、2025 年度になって審査を受けた施設は含まれない。

〔北海道〕	砂川市立病院
	医療法人ケイ・アイ オホーツク海病院
〔福島〕	竹田綜合病院
	一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
	公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター附属病院
〔茨城〕	医療法人圭愛会 日立梅ヶ丘病院
〔栃木〕	栃木県医師会塩原温泉病院
〔埼玉〕	埼玉県立小児医療センター
〔東京〕	公益社団法人地域医療振興協会 東京北医療センター
〔神奈川〕	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院
	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院
	医療法人財団明理会 東戸塚記念病院
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会 東神奈川リハビリテーション病院
	医療法人社団緑成会 横浜総合病院
〔石川〕	石川県立中央病院
	能美市介護老人保健施設 はまなすの丘
〔山梨〕	山梨厚生病院
〔長野〕	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院
	上伊那生協病院
〔岐阜〕	医療法人仁誠会 大湫病院
〔愛知〕	医療法人一草会 一ノ草病院
	JA 愛知厚生連 安城更生病院
	医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
〔滋賀〕	医療法人恒仁会 近江温泉病院
〔大阪〕	社会医療法人若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院
	医療法人せいわ会 大阪たつみリハビリテーション病院
	社会医療法人東和会 第一東和会病院
〔兵庫〕	医療法人山伍会 播磨大塩病院
〔山口〕	医療法人和同会 山口リハビリテーション病院
〔香川〕	医療法人社団和風会 橋本病院
〔愛媛〕	独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院
〔福岡〕	九州鉄道記念病院
〔長崎〕	医療法人見松会 あきやま病院
	医療法人友愛会 田川療養所
	独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院
〔宮崎〕	一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元病院
〔鹿児島〕	医療法人秋津会 徳田脳神経外科病院
	医療法人三心会 西田病院
	社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター
〔沖縄〕	株式会社いきがいきレーション いきがいのまちデイサービス美里

以上 40 施設

2024 年度 MTDL P 推進協力強化校・推進協力校認定審査結果

以下の学校養成施設を 2024 年度に MTDL P 推進協力強化校および推進協力校として承認したことを公示する（青文字は新規取得）。

〔MTDL P 推進協力強化校〕 6 校

YMCA 米子医療福祉専門学校 作業療法士科

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科

八千代リハビリテーション学院 作業療法学科

横浜リハビリテーション専門学校 作業療法学科

四国医療専門学校 作業療法学科

藍野大学 医療保健学部 作業療法学科（MTDL P 推進協力校からの変更）

〔MTDL P 推進協力校〕 8 校

京都医健専門学校 作業療法科

愛媛十全医療学院 作業療法学科

多摩リハビリテーション学院専門学校 作業療法学科

大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

広島大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻

広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

目白大学 保健医療学部 作業療法学科

以上 14 校

2024 年度 WFOT 認定審査結果

以下の学校養成施設を 2024 年度に WFOT 認定校として認定したことを公示する。

日本医療大学

群馬大学 医学部 保健学科

目白大学

大阪人間科学大学

宝塚医療大学 和歌山保健医療学部

国際医療福祉大学 小田原保健医療学部

四條畷学園大学

北海道大学

札幌医科大学

札幌リハビリテーション専門学校

山形県立保健医療大学

国際医療福祉大学 成田保健医療学部

杏林大学

昭和大学

新潟医療福祉大学

大阪河崎リハビリテーション大学

松江総合医療専門学校

専門学校 川崎リハビリテーション学院

専門学校 穴吹リハビリテーションカレッジ

愛媛十全医療学院

九州栄養福祉大学

熊本保健科学大学

大分リハビリテーション専門学校

福島県立医科大学

群馬パース大学

関西医科大学

東京工科大学

湘南医療大学

鹿児島大学

以上 29 校



2025 年度 協会研修会のご案内

・開催が決定しているもの、調整中のものを下記に記載いたします。状況により変更があることもご承知おきください。

・必ず、最新情報・お申込みにあたっての注意事項について協会ホームページの研修会ページ (<https://www.jaot.or.jp/kenshuukai/>) にてご確認ください。

・研修会の申し込みは、当該年度会費の納入後に行っていただきますようお願い致します。
・*は新規掲載、もしくは情報が更新されたものです。



▲研修会ページ

認定作業療法士取得研修 共通研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程(予定を含む)	定員数
管理運営④	2025年10月25日(土)～26日(日)	40名
管理運営⑤	2025年11月29日(土)～30日(日)	40名
管理運営⑥	2025年12月27日(土)～28日(日)	40名
管理運営⑦	2026年1月17日(土)～18日(日)	40名
管理運営⑧	2026年1月24日(土)～25日(日)	40名
研究法④	2025年10月11日(土)～12日(日)	35名
研究法⑤	2025年11月15日(土)～16日(日)	35名
研究法⑥	2025年12月13日(土)～14日(日)	35名
研究法⑦	2026年1月10日(土)～11日(日)	35名

認定作業療法士取得研修 選択研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程(予定を含む)	定員数
身体障害の作業療法⑤	2025年10月18日(土)～19日(日)	40名
身体障害の作業療法⑥	2025年11月1日(土)～2日(日)	40名
身体障害の作業療法⑦	2026年1月10日(土)～11日(日)	40名
老年期障害の作業療法④	2025年12月20日(土)～21日(日)	40名
精神障害の作業療法②	2025年12月13日(土)～14日(日)	40名
* 発達障害の作業療法①	2025年11月22日(土)～23日(日)	40名
発達障害の作業療法②	2025年12月13日(土)～14日(日)	40名

専門作業療法士取得研修

基礎研修：受講要件はありません。臨床経験や認定取得状況にかかわらず、入会后臨床1年目から受講可能です（高次脳機能障害は除く）。

講座名	日程（予定を含む）	定員数
就労支援基礎Ⅰ	2025年12月20日（土）～21日（日）	50名
就労支援基礎Ⅴ	2025年10月18日（土）～19日（日）	50名
精神科急性期応用Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2026年1月10日（土）～11日（日）	10名
* 摂食嚥下応用Ⅰ（対面）	2026年1月31日（土）～2月1日（日）	20名
摂食嚥下応用Ⅳ	2025年11月22日（土）～23日（日）	10名
特別支援教育基礎Ⅳ（旧：基礎Ⅱ-2）	調整中	調整中
* 特別支援教育応用Ⅱ	2026年1月24日（土）～25日（日）	10名

養成教育関連研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程（予定を含む）	定員数
臨床実習指導者実践研修会①	調整中	60名
臨床実習指導者実践研修会②	調整中	60名
臨床実習指導者実践研修会③	調整中	60名

作業療法重点課題研修

講座名に付された丸数字は日程順に附番しており、内容の違いを示すものではありません。同名講座を複数履修する必要はありません。

講座名	日程（予定を含む）	定員数
5歳児健診への作業療法士参画のための研修会①	調整中	調整中
5歳児健診への作業療法士参画のための研修会②	調整中	調整中
介護報酬改定対応 通所リハ・訪問リハ従事者研修	調整中	調整中
認知症のリハビリテーション（実践プロトコル）研修会	調整中	調整中
DAA（デジタルアクセシビリティアドバイザー）育成支援研修会	調整中	調整中
支援機器開発人材育成研修会	調整中	調整中
運転と地域移動支援①	2025年10月18日（土）～19日（日）	80名
運転と地域移動支援②	2025年2月14日（土）～15日（日）	80名
生きづらさのあるひとに対する作業療法	調整中	調整中
教員と実習指導者のためのMTDLP教育法①	2025年10月5日（日）	100名
教員と実習指導者のためのMTDLP教育法②	2026年1月25日（日）	100名

e ラーニング講座

eラーニングシステムを使用します。各講座の申込期間について、詳しくは会員ポータルサイトをご確認ください。
※eラーニング講座に定員はありません。

講座名	日程(予定を含む)	申込締め切り
* 専門作業療法士(認知症) 取得研修 基礎Ⅰ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(認知症) 取得研修 基礎Ⅱ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(高次脳機能障害) 取得研修 基礎Ⅳ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅰ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅱ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅲ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(摂食嚥下) 取得研修 基礎Ⅳ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(訪問) 取得研修 基礎Ⅰ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(がん) 取得研修 基礎Ⅰ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(がん) 取得研修 基礎Ⅱ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(がん) 取得研修 基礎Ⅲ(旧:基礎Ⅲ-1)	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(特別支援教育) 取得研修 基礎Ⅲ(旧:基礎Ⅱ-1)	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 専門作業療法士(脳血管障害) 取得研修 基礎Ⅱ	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* がん・非がんの緩和ケア ～作業療法実践に必要な緩和ケアの知識～	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 英語での学会発表 抄録・ポスター・スライド作成はじめて講座	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 地域ケア会議に資する人材育成研修	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 自動車運転と作業療法	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)
* 子育て・介護を担う女性作業療法士の働き方	2025年10月1日(水)～2025年11月30日(日)	9月5日(金)

2025 年度 臨床実習指導者講習会一覧

臨床実習指導者講習会			
主催県士会	日程	定員	詳細・問い合わせ先
* 群馬県	2025年9月20日(土)～9月21日(日)	50名	詳細は、各都道府県作業療法士会ホームページをご参照ください。
* 富山県	2025年9月20日(土)～9月21日(日)	60名	
* 福島県	2025年9月20日(土)～9月21日(日)	30名	
* 長野県	2025年9月20日(土)～9月21日(日)	80名	
* 北海道	2025年9月27日(土)～9月28日(日)	100名	
* 徳島県	2025年9月27日(土)～9月28日(日)	50名	
* 滋賀県	2025年10月11日(土)～10月12日(日)	50名	
* 岡山県	2026年2月14日(土)～2月15日(日)	100名	

2025 年度 都道府県作業療法士会主催 現職者選択研修一覧

現職者選択研修						
講座名	日程	主催県士会	会場	参加費	定員	詳細・問い合わせ先
精神障害	2025年8月24日(日)	福島県	Web開催	4,000円	50名	詳細は、各都道府県作業療法士会ホームページをご参照ください。
* 精神障害	2025年10月4日(土)	静岡県	Web開催	4,000円	90名	
身体障害	2025年10月12日(日)・13日(月)	奈良県	Web開催	4,000円	80名	
精神障害	2025年10月19日(日)	青森県	Web開催	4,000円	20名	
老年期	2025年10月19日(日)	島根県	Web開催	4,000円	40名	
老年期	2025年10月26日(日)	大阪府	Web開催	4,000円	70名	
* 身体障害	2025年10月26日(日)	福岡県	Web開催	4,000円	100名	
精神障害	2025年11月29日(土)	鳥取県	Web開催	4,000円	50名	
* 精神障害	2025年11月30日(日)	新潟県	Web開催	4,000円	40名	
* 精神障害	2025年12月7日(日)	岡山県	Web開催	4,000円	50名	
精神障害	2025年12月20日(土)	神奈川県	Web開催	4,000円	90名	
身体障害	2026年1月25日(日)	神奈川県	Web開催	4,000円	90名	

※現職者選択研修の受講には、日本作業療法士協会への入会とともに、各都道府県士会への入会も必要です。所属士会以外で受講される場合には、開催士会から所属士会へ入会状況の確認をさせていただくことがありますので、ご了承の上、お申込みください。

■ 詳細は、日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。

■ 協会主催研修会の問い合わせ先 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot-kenshu@jaot.or.jp



協会刊行物・配布資料一覧

資料名	略称	税込価格
パンフレット 一般向け協会パンフレット（作業療法ってなんですか？）	パンフ OT	無料（送料負担） ※ただし、1年につき50部を超える場合は、有料。
一般向け協会パンフレット（INFORMATION BOOK 1）英語版	パンフ 英文	
入会案内	パンフ 入会	
特別支援教育パンフレット（作業療法士が教育の現場でできること）	パンフ 特別支援	
子どもへの作業療法（〇〇〇とつなぐ）	パンフ 子ども	
日々の暮らしを続けるために。認知症リハビリテーションがあります。	認知症 チラシ	
暮らしを支える医療をお手伝いします。 一かかりつけ医の先生にお伝えしたい、作業療法ができることー	パンフ かかりつけ医	
小・中学生向けパンフレット（作業療法ってなんですか？オーティくん version）	パンフ オーティくん	
認知症パンフレット「作業療法でデキタウン」	パンフ 認知症	
作業療法関連用語解説集 改訂第2版 2011	用語解説集	1,019 円
作業療法白書 2015	白書 2015	2,037 円
作業療法白書 2021	白書 2021	2,200 円（送料負担）
日本作業療法士協会五十年史	五十年史	3,056 円
作業療法啓発ポスター 2022 年度 共生社会編	ポスター 共生社会	送料のみ

作業療法マニュアルシリーズ

資料名	略称	税込価格	資料名	略称	税込価格
35：ヘルスプロモーション	マ 35 ヘルスプロモ	各 1,019 円	64：栄養マネジメントと作業療法*	マ 64 栄養	各 1,019 円
37：生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野	マ 37 マネジメント		65：特別支援教育と作業療法	マ 65 特別支援	
41：精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム	マ 41 退院促進		67：心大血管疾患の作業療法 第2版*	マ 67 心大血管	1,760 円
43：脳卒中急性期の作業療法	マ 43 脳急性期		68：作業療法研究法 第3版	マ 68 研究法	1,100 円
47：がんの作業療法① 改訂第2版	マ 47 がん①	1,540 円	69：ハンドセラピー 第2版	マ 69 ハンド第2版	1,760 円
48：がんの作業療法② 改訂第2版	マ 48 がん②	1,100 円	70：認知症初期集中支援ー作業療法士の役割と視点ー第2版	マ 70 認知症初期	1,320 円
50：入所型作業療法	マ 50 入所型	各 1,019 円	71：生活支援用具と環境整備Ⅰー基本動作とセルフケアー	マ 71 生活支援用具Ⅰ	1,760 円
51：精神科訪問型作業療法	マ 51 精神訪問		72：生活支援用具と環境整備ⅡーIADL・住宅改修・自助具・社会参加ー	マ 72 生活支援用具Ⅱ	2,200 円
52：アルコール依存症者のための作業療法	マ 52 アルコール依存		73：精神科作業療法部門運用実践マニュアル	マ 73 精神運用実践	1,980 円
53：認知機能障害に対する自動車運転支援	マ 53 自動車運転		74：身体障害の作業療法実践マニュアルー早期離床を中心にー	マ 74 早期離床	1,540 円
55：摂食嚥下障害と作業療法ー吸引の基本知識も含めてー	マ 55 摂食・嚥下	1,540 円	75：生活行為向上マネジメント改訂第4版	マ 75 生活行為	1,980 円
58：高次脳機能障害のある人の生活ー就労支援ー	マ 58 高次生活・就労		76：呼吸器疾患の作業療法 第2版	マ 76 呼吸器疾患	2,200 円
60：知的障害や発達障害のある人への就労支援	マ 60 知的・発達・就労	各 1,019 円	77：通所リハビリテーションの作業療法	マ 77 通所リハ	1,540 円
61：大腿骨頸部／転子部骨折の作業療法 第2版	マ 61 大腿骨第2版		78：子どもの通所支援における作業療法	マ 78 子ども通所	各 1,980 円
62：認知症の人と家族に対する作業療法	マ 62 認知家族		79：精神科作業療法計画の立て方ーICFに基づくアセスメントと対象者が望む生活の実現ー	マ 79 精神科計画	
63：作業療法士ができる地域支援事業への関わり方*	マ 63 地域支援		80：うつ病を抱える人への作業療法	マ 80 うつ病	

※ 63・64・67 は在庫がなくなり次第、販売終了いたします。

【申し込み方法】

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページもしくは機関誌に掲載されている **FAX 注文用紙**、または **ハガキ**にてお申し込みください。

注文の際の資料名は、略称でかまいません（上の表をご参照ください）。有料配布物は当協会からのお申し込みの場合、送料は協会が負担します。ただし、購入者が非会員や団体等の場合および申し込み者が会員であっても請求書宛名が団体の場合は別途送料（実費）をご負担いただきます（ただし、都道府県士会からの申込み分は送料無料）。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

購入者が団体等の場合のみ、納品書、適格請求書（インボイス対応）を発行します。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票を同封します。**なるべく早く**お近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。



協会刊行物・配布資料注文書

FAX.03-5826-7872

※資料名は略称で結構です。

無料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数

※協会広報活動の参考にしますので、使用目的をお書き下さい

有料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数

会員番号

氏 名

※当協会の方々は、登録されている住所に送付いたします。登録住所に変更がある場合は変更手続きを行ってください。

非会員の方のみ会員番号欄に住所（〒を含む）、電話番号を記載してください。

※都道府県士会の広報活動等で使用される場合は、士会事務局に送付している専用申し込み用紙にて送付してください。

その場合、枚数制限はございません。



日本作業療法士連盟だより

連盟ホームページ▶<https://www.ot-renmei.jp/>

20年後、30年後の 作業療法士の輝く未来に向けて

兵庫県作業療法士連盟会長 大浦 由紀



2025年2月、兵庫県作業療法士会や多くの先輩方のご理解とご支援をいただき、全国で17番目の地方連盟として「兵庫県作業療法士連盟」を設立しました。

設立の約半年前から、兵庫県内の各ブロックで志を同じくする作業療法士8名にお集まりいただき、活動の方向性や内容について意見交換を重ね、設立準備を開始しました。団体の届出、主旨説明、入会案内等を収めた動画の作成、さらに、その動画を活用した設立総会に向けた周知活動等を行ってきました。

そして4月27日、設立総会を開催し、70名を超える参加者の皆様とともに、連盟としての船出を果たしました。当日は、日本作業療法士協会の山本伸一会長、兵庫県士会の長尾徹会長よりお祝いの言葉を頂戴しました。

また、記念講演会では、前・協会長の中村春基先生、前・兵庫県士会長の倉寿子先生より、「兵庫県の作業療法士の明るい未来に向けて」というテーマで、活動への期待を込めた温かいエールをいただきました。これらの励ましの言葉は、私たちが活動をスタートさせるう

えで大きな支えとなりました。

国家資格を取得してから40年が経とうとする今でも、私は日々の業務のなかで「本当に作業療法士になって良かった」と心から感じています。その想いを胸に、若い作業療法士の皆さんが将来に希望をもち、やり甲斐を感じながら輝いて働き続けられるよう、自身の最後の仕事として初代会長をお引き受けしました。

私たちは、「住み慣れた街で生まれてから最期まで、障害の有無にかかわらず、その人らしく豊かに生活する」ことを支える作業療法士の存在意義を高め、より広いフィールドでの活躍の場を築いていくことを目指しています。

その一環として、日本作業療法士連盟が掲げる政策提言を実現するための組織的な活動に、地方連盟として協力していきます。兵庫県で働く作業療法士の皆様に、政治や政策への理解と関心を深めていただき、選挙への参加や投票を呼びかける等、私たちの役割を着実に果たしていきたいと考えています。

医療福祉eチャンネルで、見て学ぶ作業療法



一般社団法人 日本作業療法士協会
会長 山本 伸一

1講座1.5時間の単位認定番組

※日本作業療法士協会会員ポータルサイトに反映

●現職者共通研修[8番組]

●生活行為向上マネジメント[基礎編]

医療福祉eチャンネル(<https://www.ch774.com/>)での単位認定には「履修登録」「受講管理料」が必要となります。詳しくは「日本作業療法士協会員の皆さまへ」をご覧ください。



自宅でできるリハビリテーション

無料で視聴できます!

動画を見ながら自宅でできるストレッチやトレーニング方法の解説、自助具の紹介など。(随時更新中)

第7回「化学療法中の運動のススメ」

第8回「口腔がん術後のリハビリテーション」

作業療法士募集

- 募集職種 作業療法士 3名程
- 応募資格 経験者(有資格者)および新卒者
- 雇用形態 常勤
- 業務内容 病棟・外来におけるリハビリテーション業務全般
- 給与 254,900円～328,900円(職務手当含む)
住宅手当：世帯主のみ 上限30,000円
(賃貸 家賃1/2負担)
- 賞与 年2回 計3.6ヶ月(前年度実績)
- 昇給 あり 1月あたり2,000～20,000円
- 勤務時間 8:30～17:30
- 休日 4週8休+祝日分
6ヶ月経過後の年次有給休暇日数 10日
夏季休暇・育児休暇・介護休暇
- 待遇 加入保険〔健康・厚生・雇用・労災〕
退職金制度あり(勤続1年以上)
- 交通 銚子電鉄観音駅から徒歩7分
車通勤可 職員駐車場完備
- 応募方法 まずはメール・電話・求人LINEにて
お問い合わせください。
病院見学・面接は随時行っております。



〒288-0031 千葉県銚子市前宿町597番地
TEL 0479-23-0561 (担当：山口)
Mail saiyo@choshi-ik.or.jp
WEB <https://www.choshi-ik.or.jp/>

求人問い合わせ
LINEアカウント



事務局職員募集

一般社団法人日本作業療法士協会では事務局職員を募集しています。作業療法士としてのこれまでの経験を活かし、作業療法の学術・教育・制度対策等の事業や法人の管理運営業務に取り組むことを通じて、作業療法士の社会的地位向上のために働いてみませんか。

- 募集人数：幹部……若干名
総合事務職……若干名
- 応募資格：本会正会員の作業療法士有資格者
○年齢・性別不問
○強い意欲をもって協会活動に取り組める方
○事務経験のある方
- 業務内容：幹部……事務局・担当部署の管理業務（事業計画と予算の立案、工程管理とPDCA、各種決裁、職場環境の整備、部下の育成など）、総合事務職の補助
総合事務職……事務局業務全般（担当事業に関する文書・資料の作成・管理、会計管理、各種システムの運用、諸会議の準備、渉外補助など）
- 雇用条件：常勤正職員として雇用（但し最初は1年間の雇用契約で開始。1年後、労使の合意があれば無期の雇用に移行）
- 雇用開始日：随時（応相談）
- 待遇：経験等を勘案し、本会の職員給与規程による
- 保険：雇用、労災、健康、厚生
- 勤務時間：8:45～17:30
- 在宅勤務：本会の在宅勤務規程によりテレワークを一部併用
- 休日・休暇：週休2日、祝日、年末年始休暇、夏期休暇、年次有給休暇、特別休暇、育児・介護休業規程完備
- 応募方法：希望する職務(幹部・総合事務職)の別を明記の上、履歴書、職務経歴書を下記宛に郵送
- 応募期限：随時
- 選考方法：書類選考の上、面接、試験による

一般社団法人 **日本作業療法士協会 事務局**
〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル7 階
TEL: **03-5826-7871** FAX 03-5826-7872
担当：宮井

催物・企画案内

令和7年度 脊髄小脳変性症(SCD)・多系統萎縮症(MSA) 医療後援会・相談会

日 時：2025. 9/15 (月)
会 場：きゅりあん（品川区立総合区民会館）7階イベントホール
お問合せ：全国脊髄小脳変性症（SCD）・多系統萎縮症（MSA）友の会事務局
seminar@scdmsa.tokyo

第19回 日本作業療法研究学会学術大会

テーマ：「ヒトとロボットの空間認知
—その共通点と差異点を知る—」

日 時：2025. 9/20 (土)・21 (日)
会 場：群馬大学医学部保健学科
お問合せ：詳細は下記 URL をご覧ください
<https://www.jsotr-2025congress.com/>

第49回 日本高次脳機能学会学術総会

テーマ：脳力共創—多職種で拓く高次脳機能の未来

日 時：2025. 11/14 (金)・15 (土)
会 場：ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）
お問合せ：運営事務局
jshbd2025@congre.co.jp

第17回 茨城県作業療法学会

テーマ：こころとからだ、生活機能の探求
～「自分らしく生きる」をすべてのひとへ～

日 時：2025. 11/23 (日)
会 場：茨城県立医療大学
お問合せ：公益社団法人茨城県作業療法士会
office2@ibaraki-ot.org

第40回 中国四国アルコール関連問題学会 香川大会

テーマ：Together to make shapes
～そして、形作るアディクション支援～

日 時：2025. 11/29 (土)・30 (日)
会 場：かがわ国際会議場・サンポート高松（高松シンボルタワー内）
お問合せ：詳細は下記 URL をご覧ください。
<https://www.sanko-hp.com/arugakkai40/>

「催物・企画案内」の申込先

kikanshi@jaot.or.jp

掲載の可、不可についてはご連絡致しませんことをご理解ください。また、2号以上の掲載はお引き受けいたしかねます。なお、原稿によっては割愛させていただく場合がございますので、ご了承ください。

編 集 後 記

前月（7月）は参議院選挙が行われ、作業療法士にもかかわる医療・介護情勢や医療・介護従事者の待遇に関する政策等も議論されていました。近年は各種報道のみならず、SNS等でもさまざまなことが発信されています。溢れる情報のなかで何が正しい情報なのか、冷静に判断しなければいけない時代であるとも言われています。そのようななかで、何が大切なのか、自らもしっかりと考えて行動しなければいけないことを改めて感じました。また、月末にはカムチャツカ半島沖でM8.7の地震が発生しました。いつ来るかも知れない自然災害に対しても、協会として、また個人としての備えも改めて重要だと再認識しました。自然災害、物価高騰等、社会的に不安になるような情報もたくさんありますが、あまりソワソワせず、自分にできることからマイペースに、粛々とやるべきことに取り組んでいきたいものだと思います。

（機関誌編集制作スタッフ）

本誌に関するご意見、お問い合わせがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■ 2024 年度の確定組織率

50.8%（会員数 60,146 名／有資格者数 118,465 名^{*}）

※ 2025 年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した 2024 年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■ 2025 年 7 月 1 日現在の作業療法士

有資格者数 118,465 名^{*}

会員数 61,113 名

社員数 257 名

認定作業療法士数 1,771 名

専門作業療法士数（延べ人数） 158 名

■ 2024 年度の養成校数等

養成校数 204 校（207 課程）

入学定員 7,625 名

※ 有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者を加え、2024 年度までの死亡退会者数（302 名）を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌（毎月 1 回発行）

第 161 号 2025 年 8 月 15 日発行

□発行人：山本 伸一

□制作広報室

室長：島崎 寛将

担当：宮井 恵次、遠藤 千冬、岩花 京太郎、大胡 陽子

□制作・印刷：株式会社サンワ

□発行 一般社団法人 日本作業療法士協会

〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872

E-mail kikanshi@jaot.or.jp 協会ホームページ <https://www.jaot.or.jp/>

□求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円（賛助会員は割引あり）



●協会ホームページに
機関誌の電子版を掲載しています

会員一人ひとりが、 もっと輝ける協会へ。

一人ひとり 性別も年齢も働く場所も違うけれど
会員それぞれが輝いて、未来へ向かって歩んで行ける
—そんな活動を展開することが
日本作業療法士協会の果たすべき役割の一つです。

日本全国の会員の誰もが主役になって、
共に学び、成長し、作業療法士として輝けるように。
日本作業療法士協会は、さまざまな声に耳を傾けながら、
会員とともに発展し、未来を創造していきたい。



日本作業療法士協会は、 変わります。

バランスの取れた組織づくりの第一歩として、
ジェンダーに着目した「クォータ制度」がスタート。
これからも協会は変わっていきます。
さまざまな性別・年代・領域の皆さん、
一緒に、作業療法士の未来を創っていきませんか？



クォータ制度の
詳しい情報はこちらから



一般社団法人
日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists



2025年8月15日発行 第161号